

令和 7 年度
播磨町部活動地域移行（地域展開）
アンケート調査結果報告書

播磨町教育委員会

令和 8 年 9 月

目次

調査の概要	1
結果の要約	3
令和7年度調査結果	4
1 中学生調査	4
(1) 身長	4
(2) 体重	4
(3) 朝食の摂取状況	4
(4) 1週間の運動時間	5
(5) 1日の睡眠時間	5
(6) 1日の勉強時間	5
(7) 地域クラブの所属経験	6
(8) 地域クラブ種目	6
(9) 地域クラブに入らない理由	6
(10) 地域クラブ活動のストレス	7
(11) 地域クラブ活動を通して得たいこと	7
(12) 地域クラブ活動の問題点	7
(13) 活動の動機	8
(14) 指導者の希望	9
(15) 地域クラブの満足度	9
2 小学生調査	9
(1) 地域クラブへの所属状況	9
(2) 地域クラブにおける活動種目	9
(3) 地域クラブでの活動希望種目	10
(4) 地域クラブ活動に対する期待	11
(5) 地域クラブ活動に対する意見・要望	12
3 保護者調査	12
(1) 子の地域クラブ所属経験	12
(2) 地域クラブに対する期待	12
(3) 地域クラブ活動の問題点	13
(4) 部活動の地域移行（展開）への賛否	13
(5) 地域クラブの月会費の受容価格帯	14
(6) 地域クラブ活動に対する不安（複数回答）	14

(7) 地域クラブの運営の重要度	15
(8) 地域クラブ活動の満足度	15
4 教員調査	16
(1) 年代	16
(2) 指導種目の経験（中学校教員のみ回答）	16
(3) 年間の学校外での活動日数（中学校教員のみ回答）	17
(4) 地域クラブ活動の意義	17
(5) 地域クラブ活動の問題点	17
(6) 平日の部活動の地域移行（展開）への賛否	18
(7) 次年度の地域移行（展開）への参画意向	18
(8) 地域クラブでの指導希望種目	18
5 指導者調査	19
(1) 年代	19
(2) 指導種目の経験	19
(3) 年間の学校外での活動日数	20
(4) 地域クラブ活動の意義	20
(5) 地域クラブ活動の問題点	20
(6) 平日の部活動の地域移行（展開）への賛否	21
(7) 地域クラブ活動の運営の重要度	21
(8) 地域移行（展開）への参画意向	22
(9) 地域クラブでの指導希望種目	22
令和7年度調査結果および令和6年度調査結果の比較	23
1 中学生の生活習慣	23
(1) 朝食の摂取状況	23
(2) 1週間の運動時間	23
(3) 1日の睡眠時間	24
(4) 1日の勉強時間	24

調査の概要

1 調査目的

土・日・祝日の部活動を段階的に地域に移行するというスポーツ庁の方針を踏まえ、現状の部活動の実態や関係者の意向について適切に把握し、部活動の円滑な地域移行（地域展開）をめざして、今後の施策の基礎資料とするため調査を実施する。加えて、地域移行に伴う部活動環境の変化が、当事者である生徒たちに及ぼす影響を心理的側面から捉え、地域移行の効果検証を行う。

2 調査主体

播磨町教育委員会

3 調査協力

流通科学大学

（調査主担当）	与那覇秀勲	（人間社会学部人間健康学科	講師）
（調査協力者）	関 和俊	（人間社会学部人間健康学科	教授）
	山口 志郎	（人間社会学部人間健康学科	教授）
	北村 裕美	（人間社会学部人間健康学科	教授）
	内田 遼介	（人間社会学部人間健康学科	准教授）
	山本 隼年	（人間社会学部人間健康学科	准教授）
	青山 将己	（人間社会学部人間健康学科	准教授）
	高橋 宏斗	（人間社会学部人間健康学科	講師）
	魚田 尚吾	（人間社会学部人間健康学科	講師）

4 調査方法

WEB 調査

- 小中学生：個人配付のタブレットからの回答
- 教 職 員：個人配付のタブレットからの回答
- 保 護 者：QRコードの読み取りによるスマートフォン等からの回答

5 調査期間

令和7年12月15日（月） ～ 令和7年12月23日（火）

6 回答数

小学校4～6年生	862人
中学校1・2年生	513人
保護者	776人
教員	124人
地域指導者	46人

7 調査項目

調査対象		調査内容	カテゴリー
中学生	属性	①身長 ②体重	
	生活習慣	①朝食 ②運動時間 ③睡眠時間 ④勉強時間	
	所属	①地域クラブ所属経験 ②地域クラブ種目	
	ストレス頻度（5項目）	①そう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない	
	地域クラブ活動で得たいこと（9項目）	①そう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない	
	地域クラブの問題点（11項目）	⑤分からない	
	地域クラブ活動の動機	複数回答（26項目から該当するものを選択）	
	指導者の希望	①学校の先生 ②地域の指導者 ③どちらでもよい	
	地域クラブ活動の満足度	①とても満足している ②どちらかといえば満足している ③どちらかといえば満足していない ④満足していない	
	指導者の希望理由		
	地域クラブに所属していない理由	自由記述	
	部活動に対する意見・要望		
小学生	所属	①地域クラブ所属経験 ②活動種目 ③活動希望種目	
	部活動に対する期待（8項目）	①そう思わない ②あまりそう思わない ③ややそう思う ④そう思う ⑤分からない	
	部活動に対する意見・要望	自由記述	
保護者	所属	①地域クラブ所属経験	
	地域クラブに対する期待（10項目）	①そう思わない ②あまりそう思わない ③ややそう思う	
	地域クラブの問題点（9項目）	④そう思う ⑤分からない	
	地域移行（展開）への賛否	①賛成である ②どちらかといえば賛成である ③あまり好ましくない ④反対である ⑤わからない	
	月会費の受容価格帯	①高いと思う価格 ②安いと思う価格 ③高すぎる価格 ④安すぎて疑わしい価格	
	地域クラブ活動に対する不安	選択式および自由記述	
	地域クラブの運営の重要度（16項目）	①とても重要である ②重要である ③どちらともいえない ④重要でない ⑤全く重要でない	
	地域クラブ活動の満足度（中学生保護者のみ）	①とても満足している ②どちらかといえば満足している ③どちらかといえば満足していない ④満足していない	
教員	地域クラブ活動に対する意見・要望	自由記述	
	属性	①年代	
	指導する地域クラブ活動の種目経験（中学校教員のみ）	①経験種目である ②経験種目でないが指導ができる ③経験種目でなく自信がない ④地域クラブに関わっていない	
	年間の学校外での活動日数（中学校教員のみ）	①0日または、部活動に関わっていない ②1日～5日 ③6日～10日 ④11日～20日 ⑤21日～30日 ⑥31日以上	
	地域クラブ活動の意義（10項目）	①そう思わない ②あまりそう思わない ③ややそう思う ④そう思う	
	地域クラブ活動の問題点（10項目）		
	平日の地域移行（展開）の賛否	①賛成である ②どちらかといえば賛成である ③どちらかといえば反対である ④反対である	
	次年度の指導者としての参画意向	①参画する ②参画しない ③現時点では分からない	
	指導希望種目		
	地域クラブ活動に対する意見・要望	自由記述	
地域指導者	属性	①年代	
	指導する種目の経験	①経験種目である ②経験種目でないが指導ができる ③経験種目でなく自信がない	
	年間の学校外での活動日数	①0日 ②1日～5日 ③6日～10日 ④11日～20日 ⑤21日～30日 ⑥31日以上	
	地域クラブ活動の意義（10項目）	①そう思わない ②あまりそう思わない ③ややそう思う ④そう思う	
	地域クラブ活動の問題点（10項目）		
	平日の地域移行（展開）の賛否	①賛成である ②どちらかと言えば賛成である ③どちらかと言えば反対である ④反対である	
	地域クラブの運営の重要度（16項目）	①とても重要である ②重要である ③どちらともいえない ④重要でない ⑤全く重要でない	
	次年度の指導者としての参画意向	①参画する ②参画しない ③現時点では分からない	
	指導希望種目		
	地域クラブ活動に対する意見・要望	自由記述	

結果の要約

1 中学生

- ・地域クラブへの所属経験がある生徒は 77.0%であり、活動への満足度は 90.1%と高かった。活動を通して「中学校生活を楽しく豊かにしたい (89.3%)」「試合で勝つ喜びを味わいたい (85.6%)」という期待が高く、活動の動機としても達成感や喜びを求める回答が多かった。
- ・活動で感じたストレスは、「勉強との両立が難しくなった (42.4%)」「時間が長くて帰りがおそくなった (41.2%)」が多く、学業との両立や活動時間の工夫が求められる。
- ・希望する指導者は「地域の指導者 (26.8%)」が「学校の先生 (19.0%)」を上回った。部活動の地域展開の進行に伴い、地域の指導者を希望する割合が高くなっていた。

2 小学生

- ・地域クラブに所属している割合は 51.2%であった。活動希望種目は「バドミントン (167 名)」「e スポーツ (148 名)」「陸上競技 (138 名)」「卓球 (137 名)」が多かった。
- ・活動への期待は「中学校生活を楽しくしたい (92.6%)」が最も高く、技術の向上や学年を超えた友人づくりへの期待も高かった。

3 保護者

- ・地域移行（展開）への賛成は 73.6%、地域クラブ活動への満足度は 81.9%であった。活動には、中学校生活の充実やスポーツ・文化芸術活動を楽しむことを期待していた。
- ・地域クラブ活動の不安としては、送迎等による身体的・時間的負担の増加 (441 名)と費用負担の増加 (334 名)が多かった。
- ・月会費の受容価格帯は 1,870 円～3,500 円であったが、指導体制や活動頻度、種目によって受容価格帯が変わる可能性がある。

4 教員

- ・平日の地域移行（展開）には 89.5%が賛成していた。一方、次年度に「参画する」と回答した割合は 9%であり、「参画しない」は 52%、「現段階では分からない」は 39%であった。
- ・地域クラブ活動の問題点は「専門的技術指導のできる教員不足 (79.8%)」が最も高かった。現在関わっている種目について「経験種目ではなく自信がない」と回答した中学校教員は 28.6%であり、専門的な指導を担う人材の確保が課題であった。

5 地域指導者

- ・平日の地域移行（展開）には 86.7%が賛成し、次年度に「参画する」と回答した割合は 74%であった。
- ・地域クラブ活動の問題点は「入部率の低下 (67.4%)」「専門的技術指導のできる教員不足 (63.0%)」「施設・設備・用具等の環境の不備 (60.9%)」が多かった。地域クラブは部員数の確保に苦慮している様子が見受けられた。

6 中学生の生活習慣の変化

- ・令和 7 年度と令和 6 年度との比較では、朝食の摂取状況と睡眠時間に有意差はみられなかった。地域クラブへの完全移行に伴い、活動時間帯が遅くなることによる影響が懸念されるものの、今回の比較では明確な変化は確認されなかった。
- ・令和 7 年度と令和 6 年度との比較では、運動時間と勉強時間はいずれも有意に増加していた。地域クラブへの完全移行に伴う活動環境や放課後の時間の使い方の変化が影響した可能性が考えられる。ただし、学習時間帯は把握しておらず、勉強時間の増加の要因については引き続き検討が必要である。

令和7年度調査結果

1 中学生調査

(1) 身長

平均身長は、1年生が $155.1 \pm 7.8\text{cm}$ 、2年生が $160.0 \pm 7.3\text{cm}$ であった。

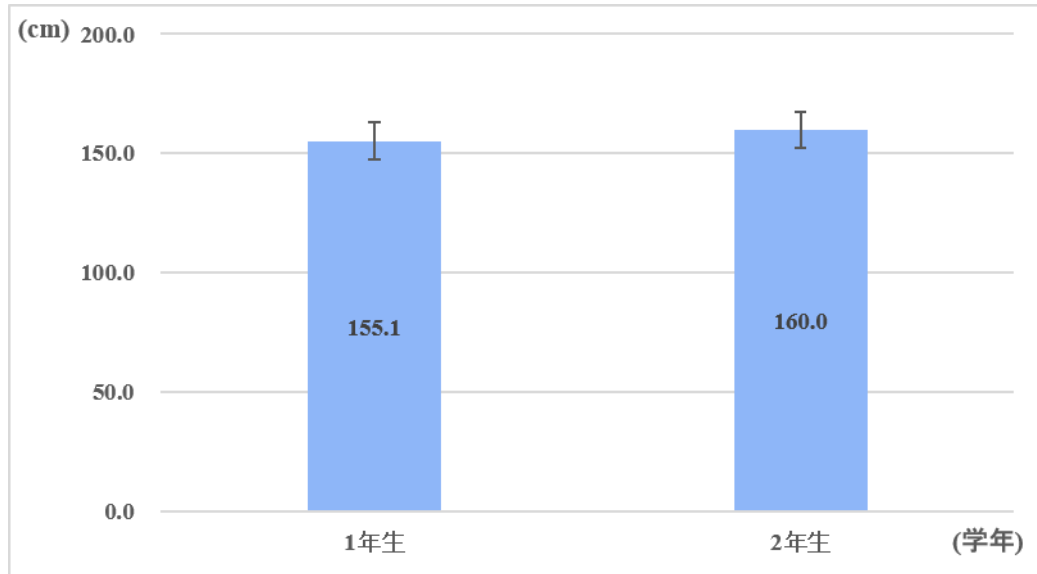


図1. 学年ごとの平均身長

(2) 体重

平均体重は、1年生が $44.9 \pm 8.0\text{kg}$ 、2年生が $48.9 \pm 7.6\text{kg}$ であった。

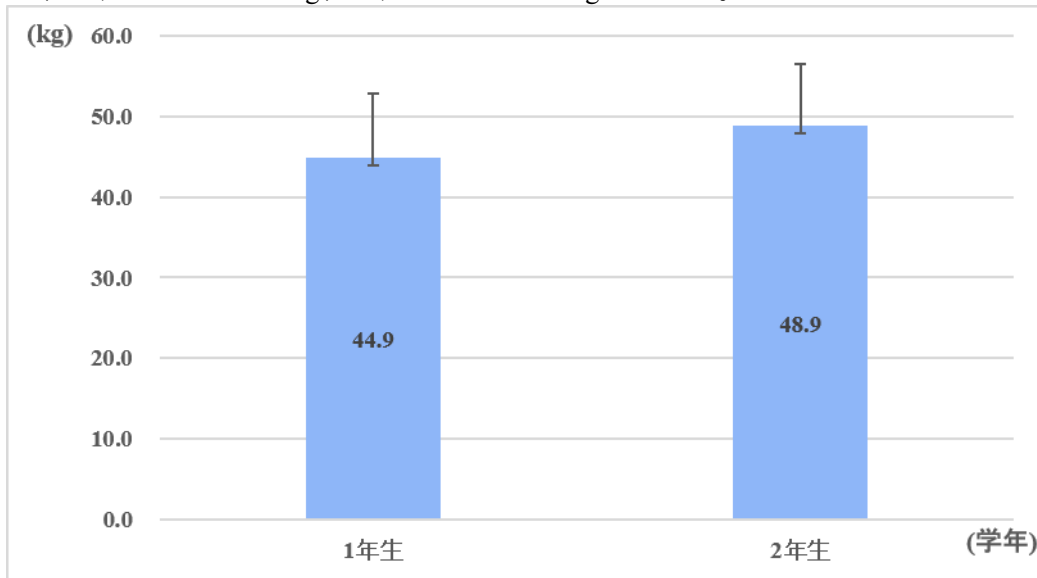


図2. 学年ごとの平均体重

(3) 朝食の摂取状況

朝食を「毎日食べている」又は「どちらかといえば食べている」と回答した生徒の割合は、中学1年生で90.2%、中学2年生で91.0%と、いずれの学年も約9割であった。また、各回答項目の割合は、両学年でおおむね同様の傾向を示した。

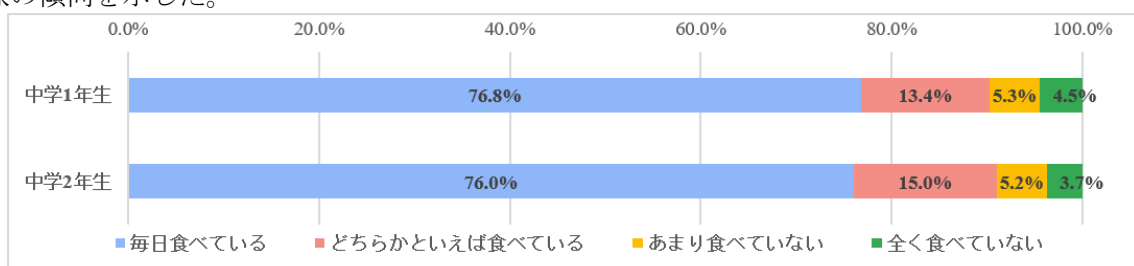


図3. 朝食の摂取状況

(4) 1 週間の運動時間

1 週間の平均運動時間は、中学 1 年生で 10.3 時間、中学 2 年生で 10.7 時間であった。

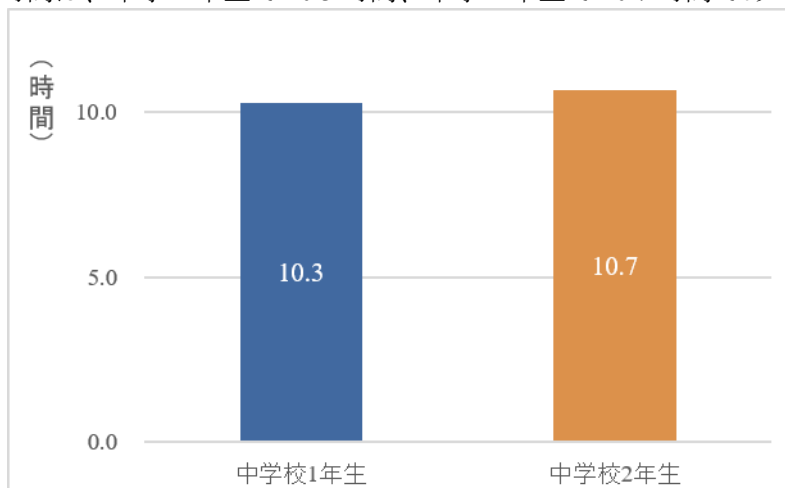


図 4. 1 週間の運動時間

(5) 1 日の睡眠時間

1 日の平均睡眠時間は、中学 1 年生で 7.6 時間、中学 2 年生で 7.4 時間であった。

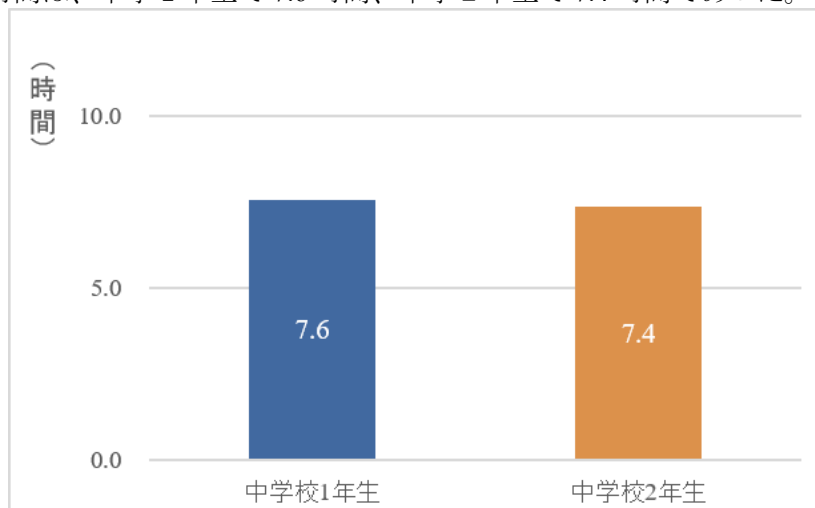


図 5. 1 日の睡眠時間

(6) 1 日の勉強時間

1 日の勉強時間は中学校 1 年生が 46.3 分、中学校 2 年生が 44.7 分であった。2 年生は 1 年生より 1.6 分短かった。

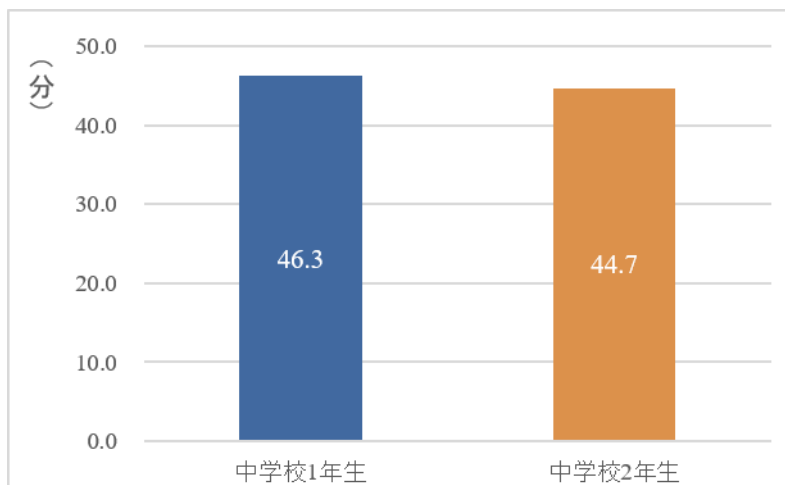


図 6. 1 日の勉強時間

(7) 地域クラブの所属経験

地域クラブの所属経験がある（現在所属している又は過去に所属していた）生徒の割合は、全体で 77.0% であり、2 年生が 79.8% と 1 年生の 74.0% を上回った。

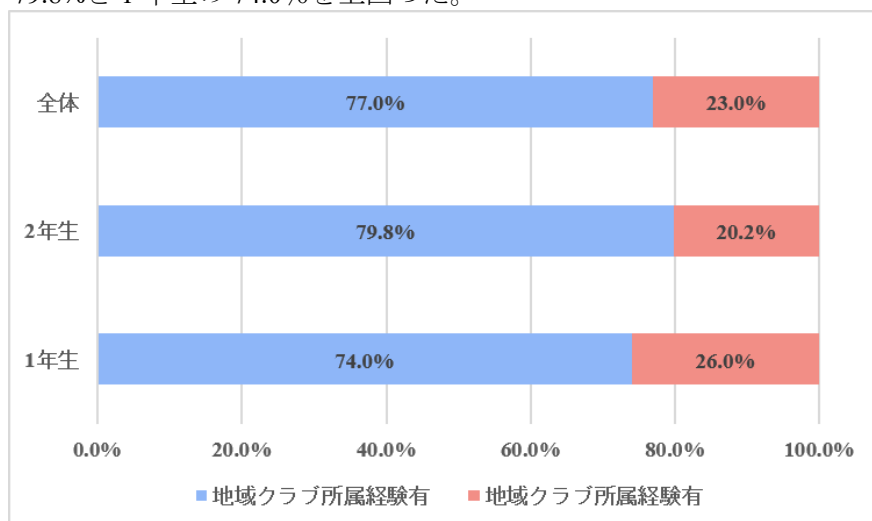


図 7. 地域クラブの所属経験

(8) 地域クラブ種目

地域クラブの種目は、ソフトテニスが 71 名と最も多く、次いでサッカー（43 名）、バスケットボール（42 名）、陸上競技（37 名）であった。

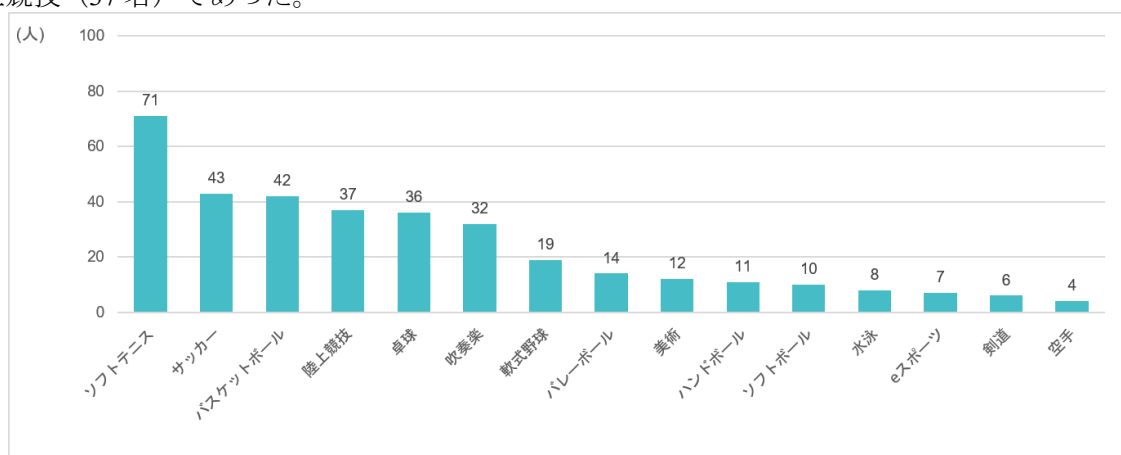


図 8. 地域クラブ種目

(9) 地域クラブに入らない理由

地域クラブへの所属経験がない生徒に対して地域クラブに入らない理由を尋ねたところ、「勉強に集中したい（30 名）」が最も多かった。地域クラブへの参加にあたり、勉強との両立に課題を感じている生徒が一定数いることがうかがえる。

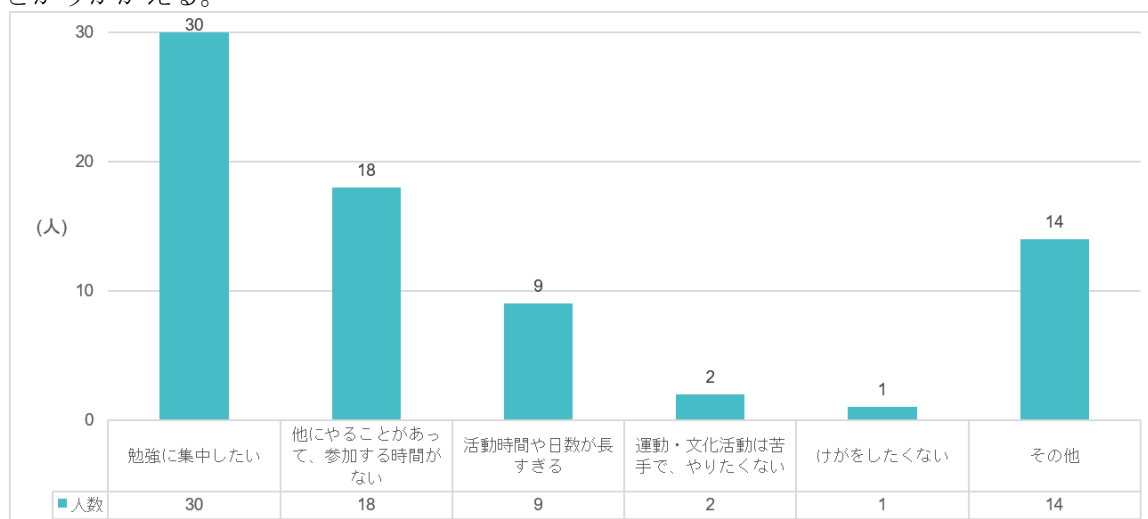


図 9. 地域クラブに入らない理由

(10) 地域クラブ活動のストレス

過去6ヶ月以内に地域クラブ活動で感じたストレスについて、「そう思う」又は「ややそう思う」と回答した割合が最も多かった項目は、「勉強との両立が難しくなった（42.4%）」であり、次いで「時間が長くて帰りがおそくなった（41.2%）」であった。生徒は学業との両立や、地域クラブの活動時間が日常生活に及ぼす影響に対してストレスを感じていることがうかがえる。

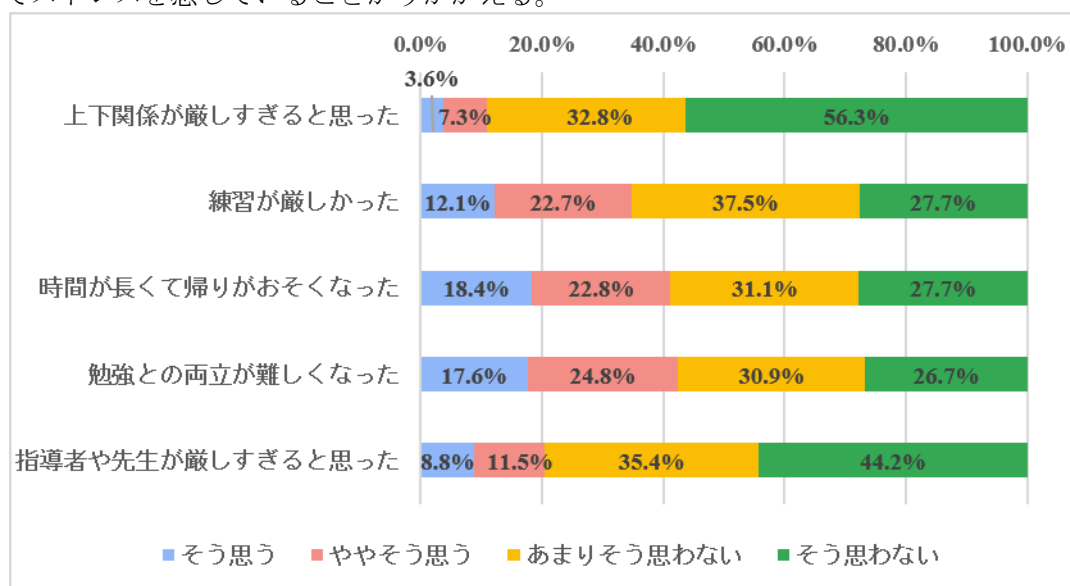


図 10. 地域クラブ活動で感じたストレス

(11) 地域クラブ活動を通して得たいこと

地域クラブ活動を通して得たいことについて、「そう思う」又は「ややそう思う」と回答した割合が高い項目は、「中学校生活を楽しく豊かにしたい（89.3%）」、「試合で勝つ喜びを味わいたい（85.6%）」、「スポーツ（競技）や文化・技術などを楽しみたい（84.3%）」であった。一方で、「高校や大学の進学に役立てたい」は、54.1%と最も低い結果であった。生徒は地域クラブ活動を通して学校生活を充実させ、喜びや楽しさを味わいたいと考えていることが分かった。

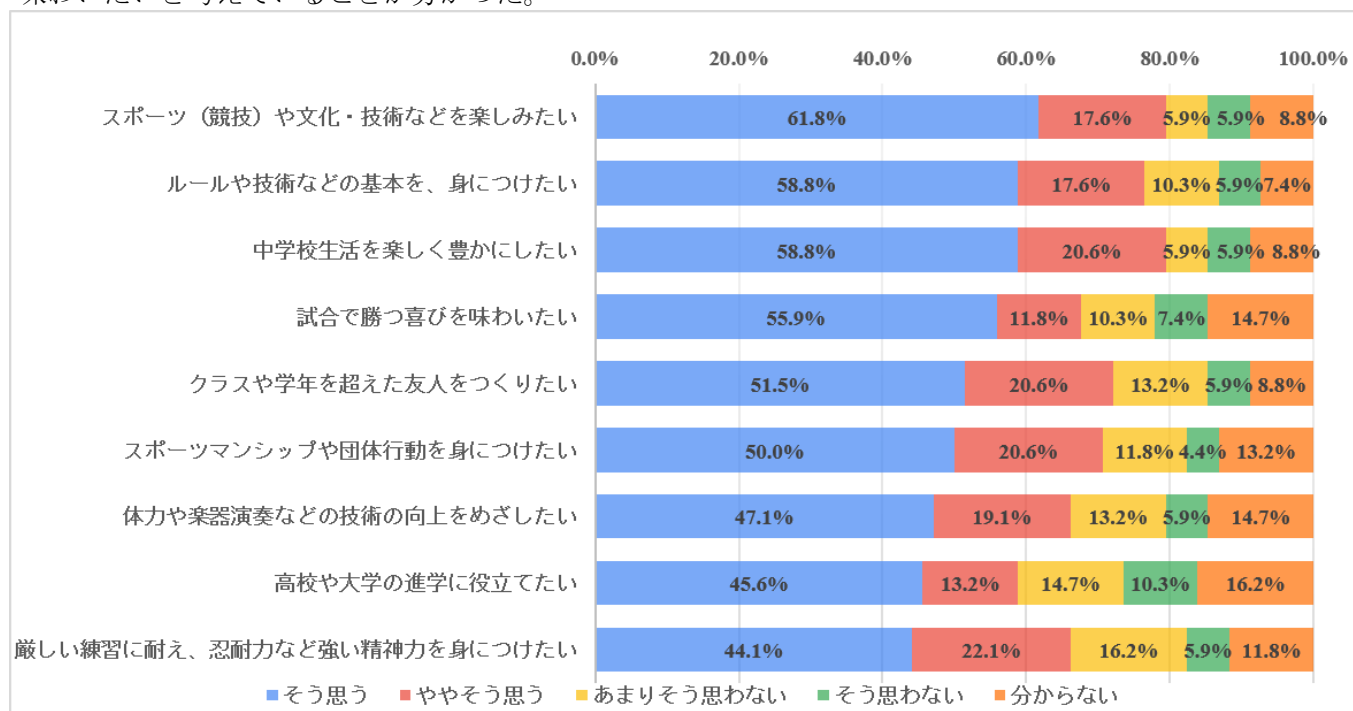


図 11. 地域クラブ活動を通して得たいこと

(12) 地域クラブ活動の問題点

地域クラブ活動の問題点について、「そう思う」又は「ややそう思う」と回答した割合が最も高かった項目は、「学業との両立が難しい（35.7%）」であり、次いで「肉体的・精神的に疲労がたまる（31.9%）」、「部活動の時間や日数が長すぎる（24.1%）」であった。一方で、「他の部員との関係が悪い（10.9%）」や「家族

の理解がない（12.4%）」と回答した割合は低かった。地域クラブ活動においては、学業との両立や地域クラブの活動に伴う疲労、活動時間などに課題を感じている生徒が多いことがうかがえる。

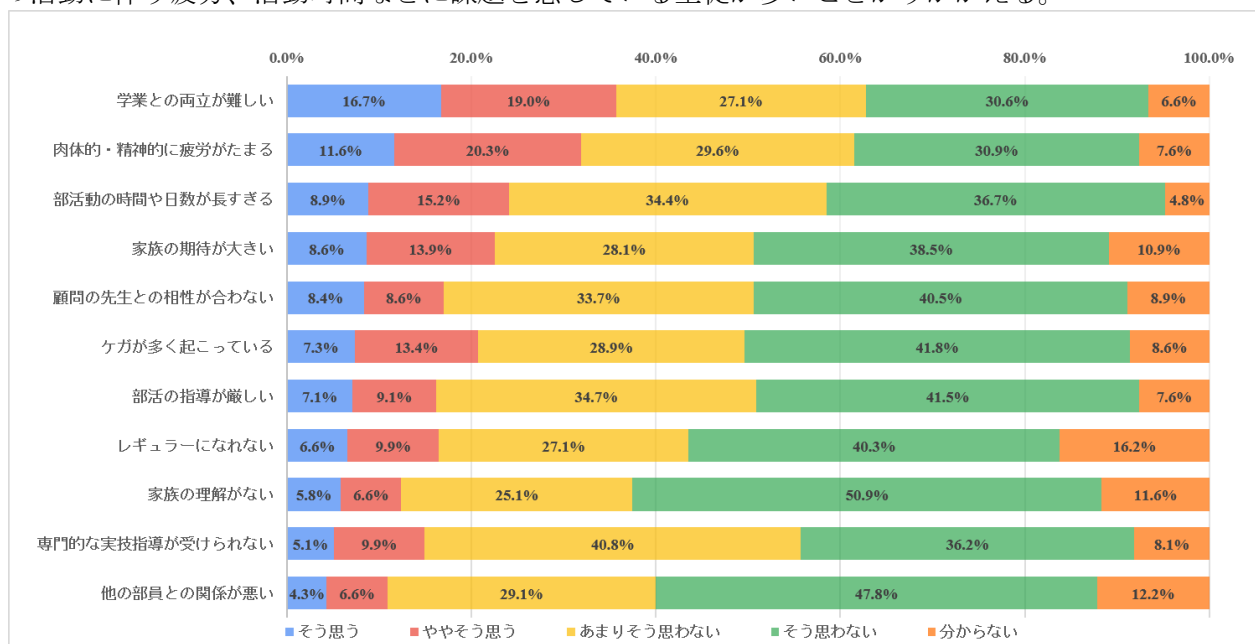


図 12. 地域クラブ活動の問題点

(13) 活動の動機

活動の動機を複数選択式で尋ねたところ、「一生懸命に活動したときの達成感を体験したいから（233名）」が最も多く、次いで「活動ができたときの喜びを味わいたいから（195名）」、「運動をしないと、体力が落ちてしまう感じがするから（180名）」であった。また、「必要最低限の体力はつけたほうが良いから（154名）」や「夢中になって活動するときの感覚が心地良いから（151名）」も多くみられた。生徒は、達成感や喜びといった活動そのものから得られる充実感や、体力の維持・向上を同期として活動していることが分かる。

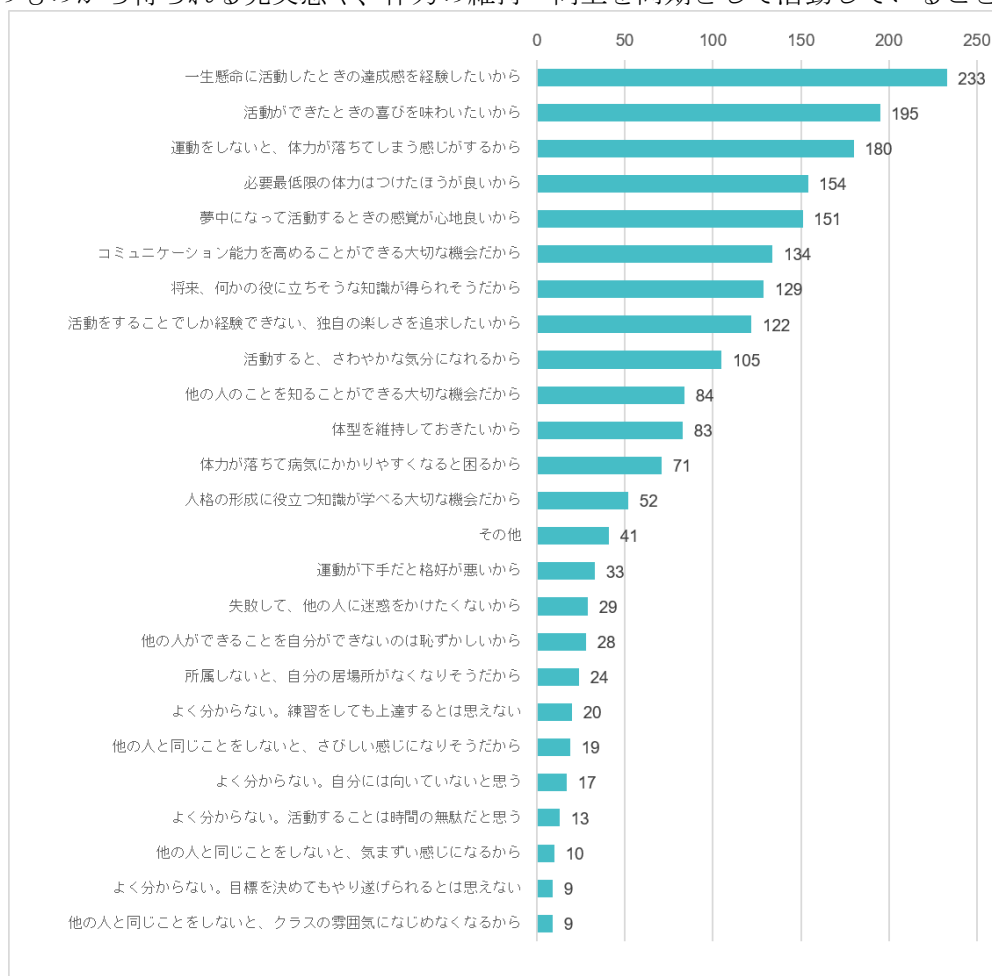


図 13. 活動の動機

(14) 指導者の希望

指導者に関する希望について、R7では「地域の指導者」を希望する生徒（26.8%）が、「学校の先生」を希望する生徒（19.0%）を上回った。R6では両者の差は0.3ポイントであったが、R7では7.8ポイントに広がっていた。部活動の地域展開が進む中で、地域の指導者と活動を共にする機会が増えたことが、地域の指導者を希望する生徒の増加につながっている可能性が考えられる。

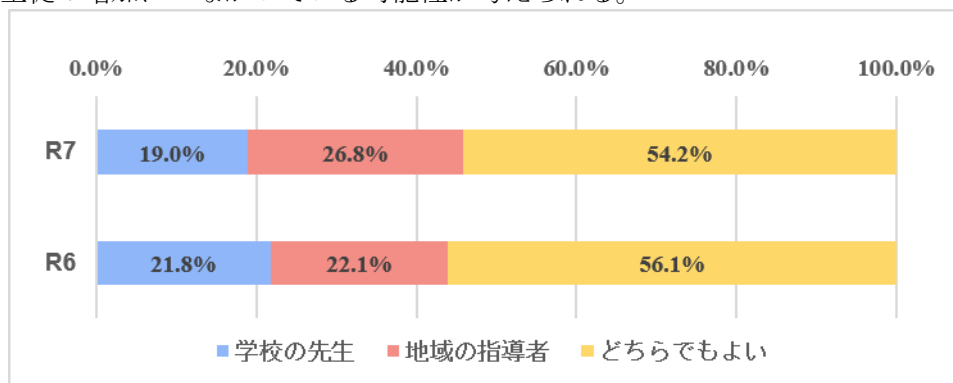


図 14. 指導者の希望

(15) 地域クラブの満足度

地域クラブ活動の満足度について、「とても満足している」又は「どちらかといえば満足している」と回答した割合は全体で90.1%であった。学年別では1年生が95.0%、2年生が85.9%であり、2年生が1年生よりも満足度がやや低い傾向がみられた。

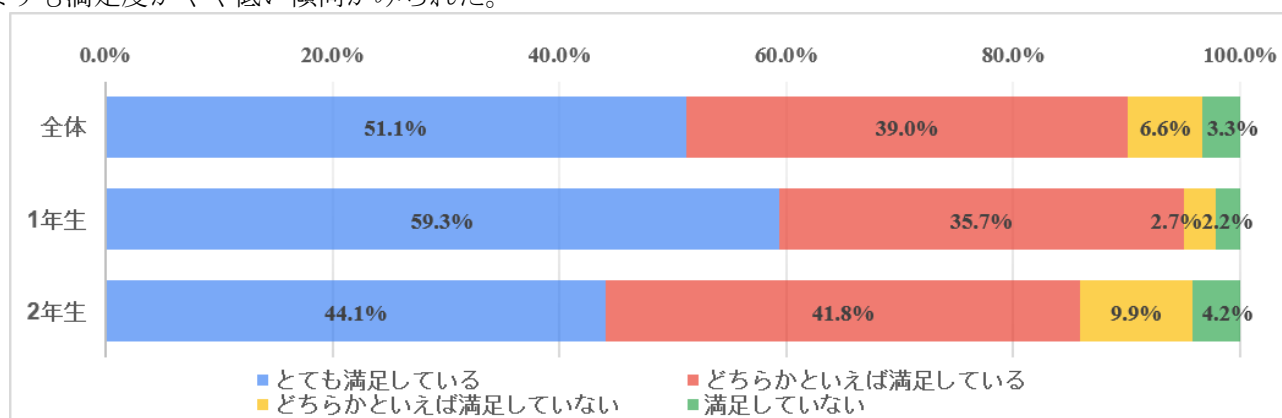


図 15. 地域クラブの満足度

2 小学生調査

(1) 地域クラブへの所属状況

地域クラブに所属している割合は、「入っている（51.2%）」が「入っていない（48.8%）」を上回った。学年別にみると、5年生の所属している割合が最も高く、59.5%であった。

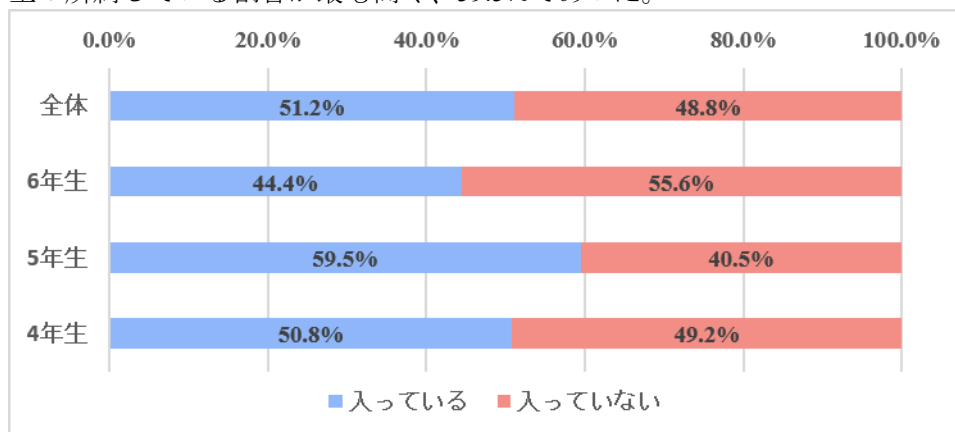


図 16. 地域クラブの所属状況

(2) 地域クラブにおける活動種目

地域クラブにおける活動種目は、「水泳（n=88）」が最も多く、次いで「サッカー（n=60）」、「陸上競技（n

= 59)」、「バスケットボール (n = 57)」の順に多かった。

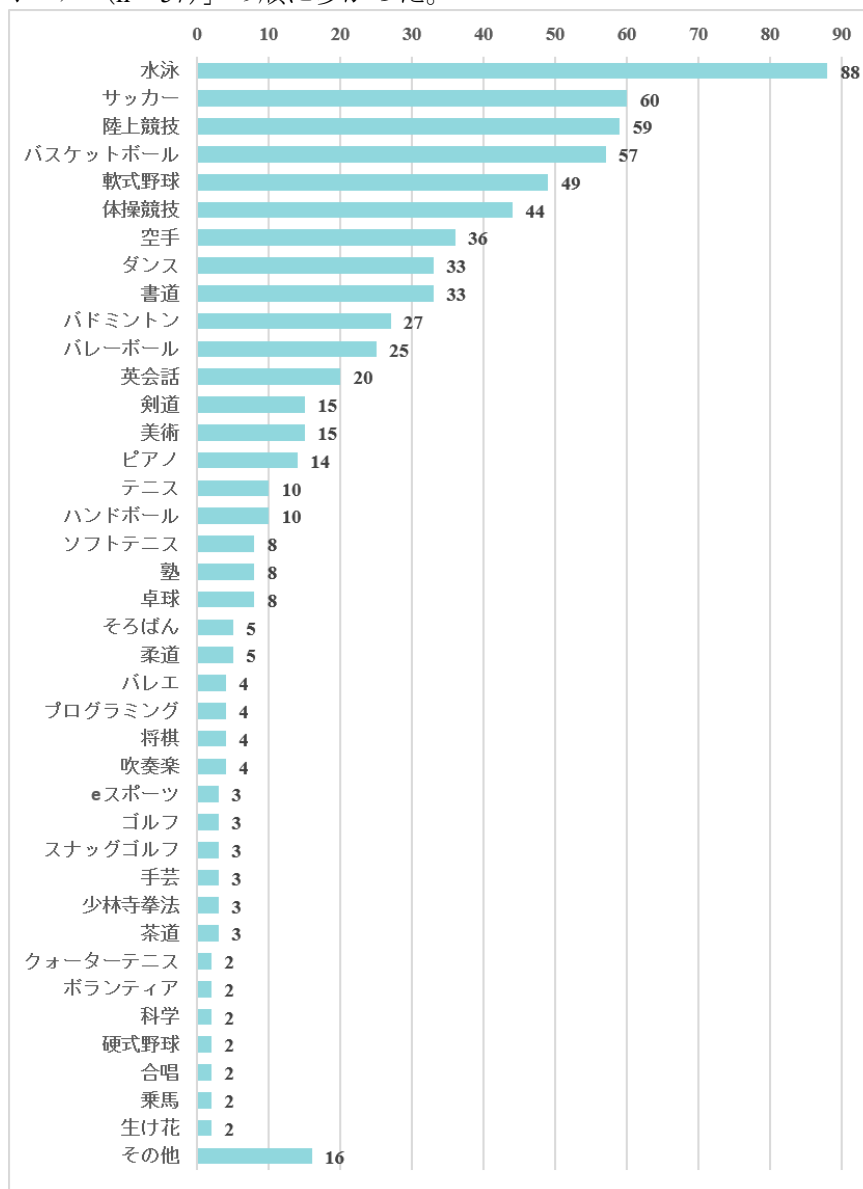


図 17. 地域クラブにおける活動種目

(3) 地域クラブでの活動希望種目

地域クラブでの活動希望種目は、「バドミントン (n = 167)」が最も多く、次いで「e スポーツ (n = 148)」、「陸上競技 (n = 138)」、「卓球 (n = 137)」であった。

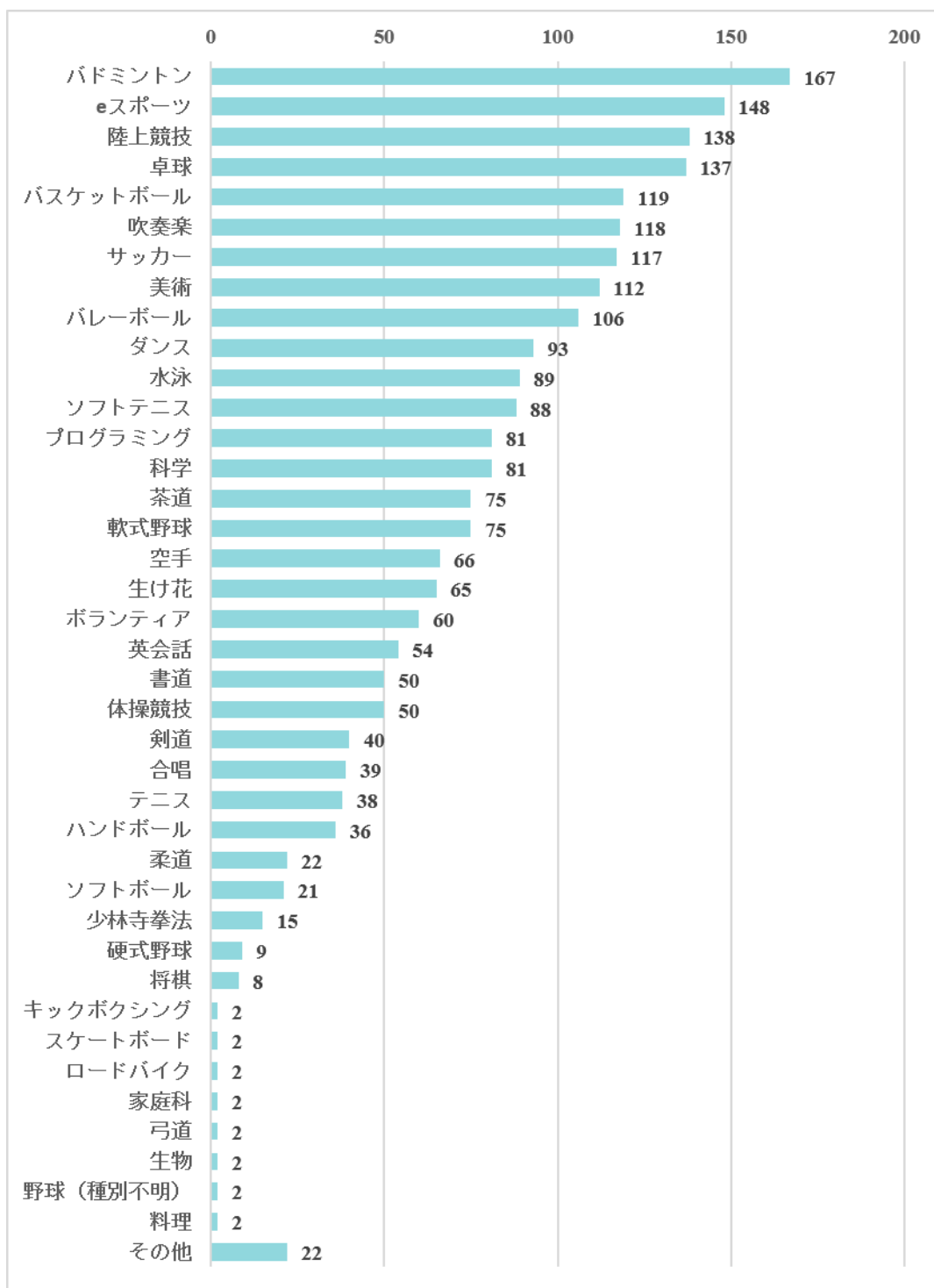


図 18. 地域クラブでの希望種目

(4) 地域クラブ活動に対する期待

地域クラブ活動に対する期待について、「そう思う」又は「ややそう思う」と回答した割合が最も高かった項目は、「中学校生活を楽しみたい（92.6%）」であった。また、「技術の向上をめざしたい（86.4%）」、「学年を超えた友人をつくりたい（86.2%）」、「礼儀正しく団体行動を身につけたい（86.2%）」についても高い割合を示した。中学校生活を楽しむことに加え、技術の向上や人間関係の形成、社会性を身につけることへの期待がみられる。

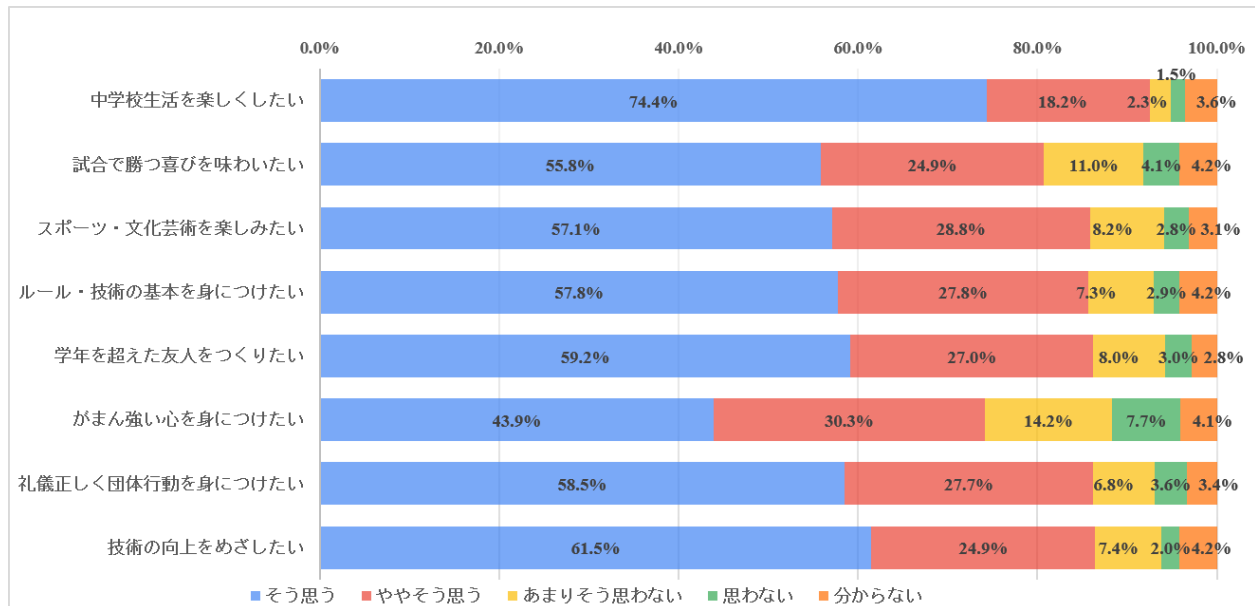


図 19. 地域クラブ活動に対する期待

(5)

3 保護者調査

(1) 子の地域クラブ所属経験

保護者が回答した子どもの地域クラブへの所属経験について、「所属経験あり」の割合は全体で 57.5%であった。中学生では 7 割以上が所属経験を有しており、特に中学 2 年生では 88.1%と高かった。

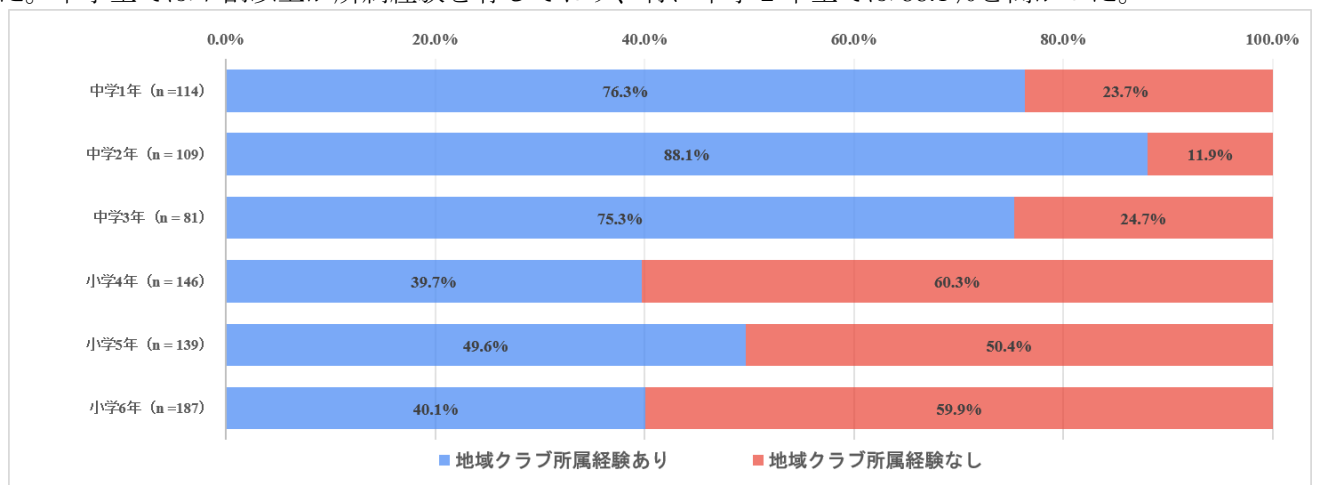


図 20. 子の地域クラブ所属経験

(2) 地域クラブに対する期待

地域クラブに対する期待について、「そう思う」又は「ややそう思う」と回答した割合が最も高かった項目は、「中学校生活楽しく豊かであってほしい (99.0%)」であり、次いで「スポーツ（競技）や文化・芸術などを楽しんでもらいたい (98.7%)」、「クラスや学年を超えた友人をつくらせたい (95.8%)」であった。一方で、最も低かった項目は、「高校や大学の進学に役立てたい (50.7%)」であった。保護者は、地域クラブ活動に対して、進学への有用性よりも、中学校生活の充実やスポーツ・文化芸術活動を楽しむことや友人との関係づくりを期待していると考えられる。

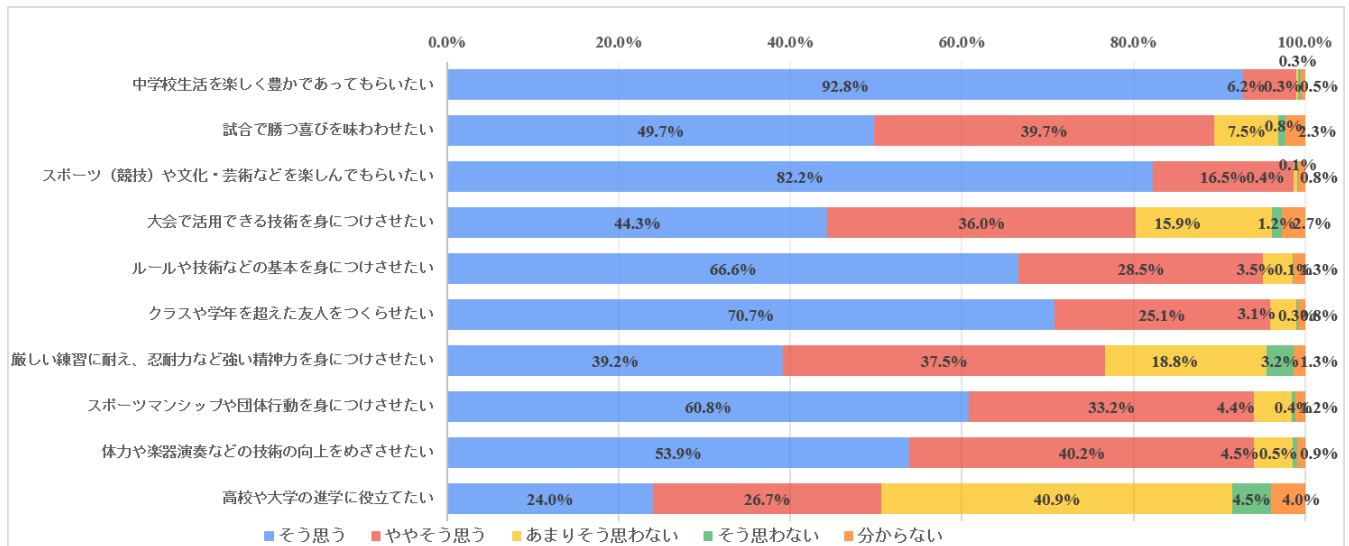


図 21. 地域クラブ活動に対する期待

(3) 地域クラブ活動の問題点

地域クラブ活動の問題点について、「そう思う」又は「ややそう思う」と回答した割合が最も高かった項目は、「専門的な実技指導が受けられない（25.6%）」であり、次いで「学業との両立が難しい（19.0%）」、「肉体的・精神的に疲労がたまる（17.1%）」であった。一方、「クラブ活動の指導が厳しい（7.2%）」、「ケガが多く起こっている（8.4%）」、「他のクラブ員との関係が悪い（8.8%）」といった項目は相対的に低かった。保護者は、専門的な実技指導を受ける機会や、学業との両立、活動に伴う疲労を課題として認識していることがうかがえる。

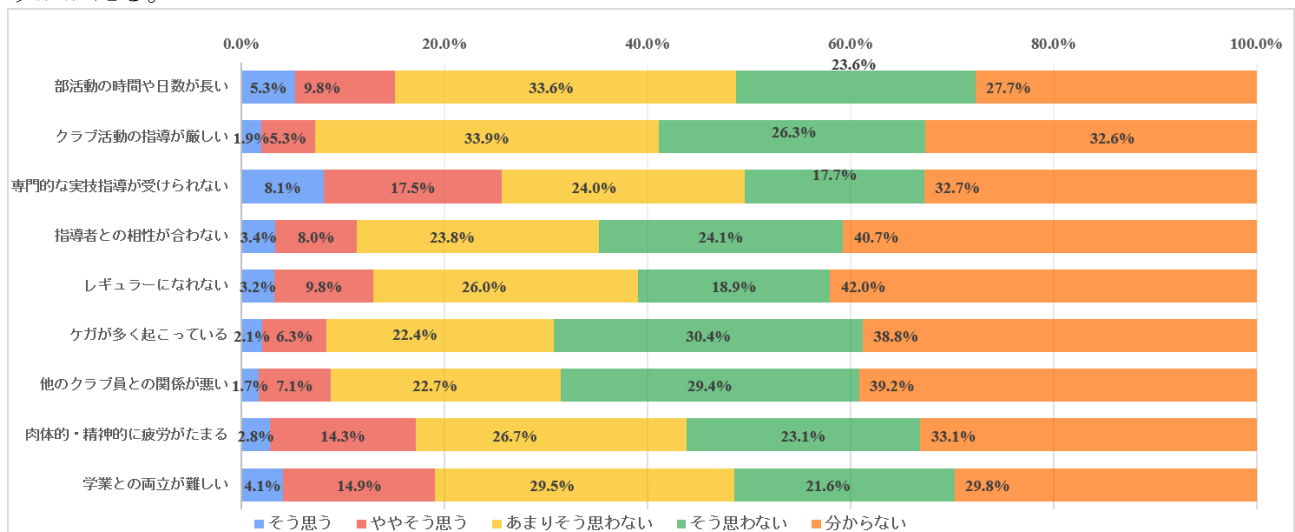


図 22. 地域クラブ活動の問題点

(4) 部活動の地域移行（展開）への賛否

地域移行（展開）に「賛成である」又は「どちらかと言えば賛成である」と回答した割合は 73.6%であり、概ね肯定的であった。一方で反対は 10.3%であった。

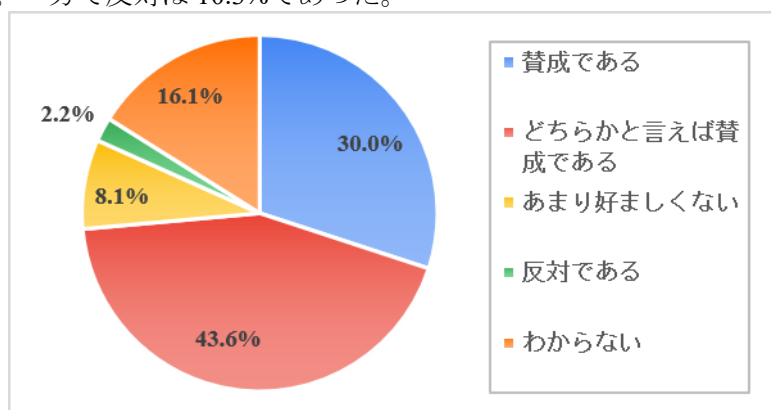
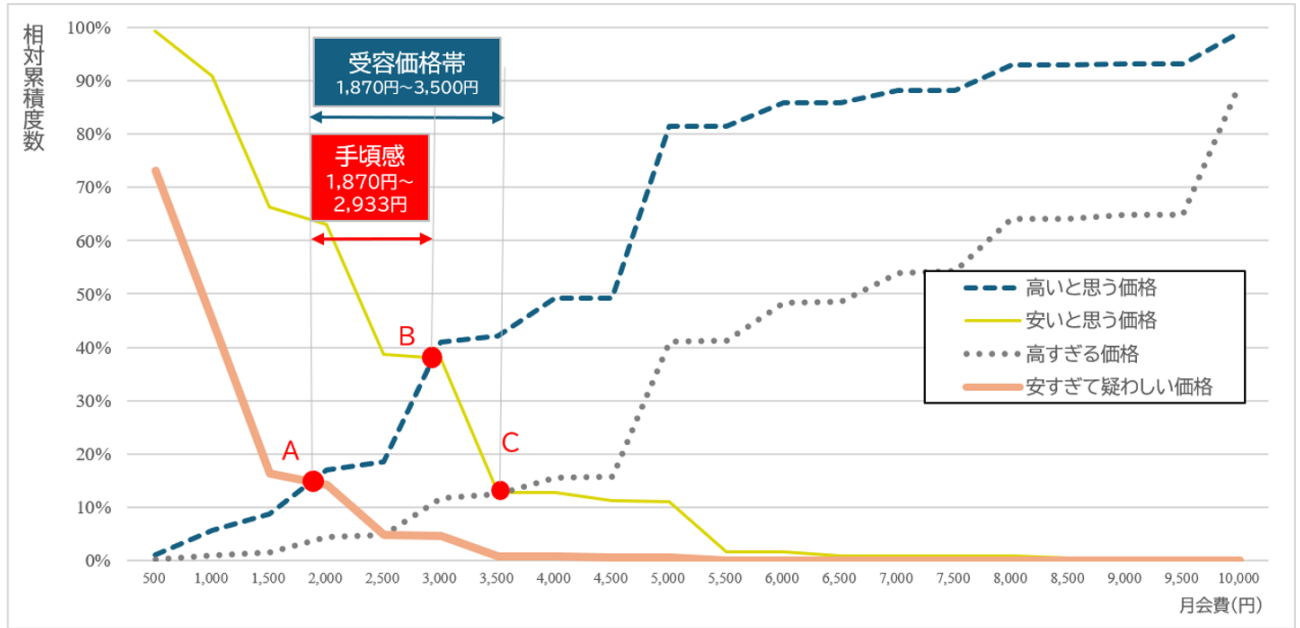


図 23. 部活動の地域移行（展開）への賛否（保護者）

(5) 地域クラブの月会費の受容価格帯

地域クラブ活動に要する月会費について、「高いと思う価格」、「安いと思う価格」、「高すぎる価格」、「安すぎて疑わしい価格」を尋ね、それぞれの価格の分布を示した。「安すぎて疑わしい価格」と「高いと思う価格」の交点 A は、その価格より安くなるとサービスの質に不安を感じ、加入をためらうことから「下限価格」とされている。「安いと思う価格」と「高いと思う価格」の交点 B は、価格に対する反応が拮抗する点であることから「妥協価格」とされている。「安いと思う価格」と「高すぎる価格」の交点 C は、その価格より高くなると、高すぎると感じて加入をためらうことから「上限価格」とされている。

結果として、保護者が地域クラブ活動の月会費として受容可能な価格帯は 1,870 円～3,500 円となった。また、受容価格帯のうち、下限価格から妥協価格までの 1,870 円～2,933 円が「手頃感」をもって受け入れられる価格帯となった。一方、地域クラブ活動の月会費に対する評価は、指導体制や活動頻度、種目など、提供されるサービスの内容によって変動する可能性があることに留意する必要がある。



備考: A=下限価格、B=妥協価格、C =理想価格

図 24. 地域クラブの月会費の受容価格帯

(6) 地域クラブ活動に対する不安（複数回答）

地域クラブ活動に対する不安としては、「送迎等で、身体的・時間的負担が増えるのでは (n = 441)」が最も多く、次いで「費用負担が増えるのでは (n = 334)」であった。部活動と比べて保護者の身体的負担や金銭的負担が増えることに不安を感じていることがうかがえる。

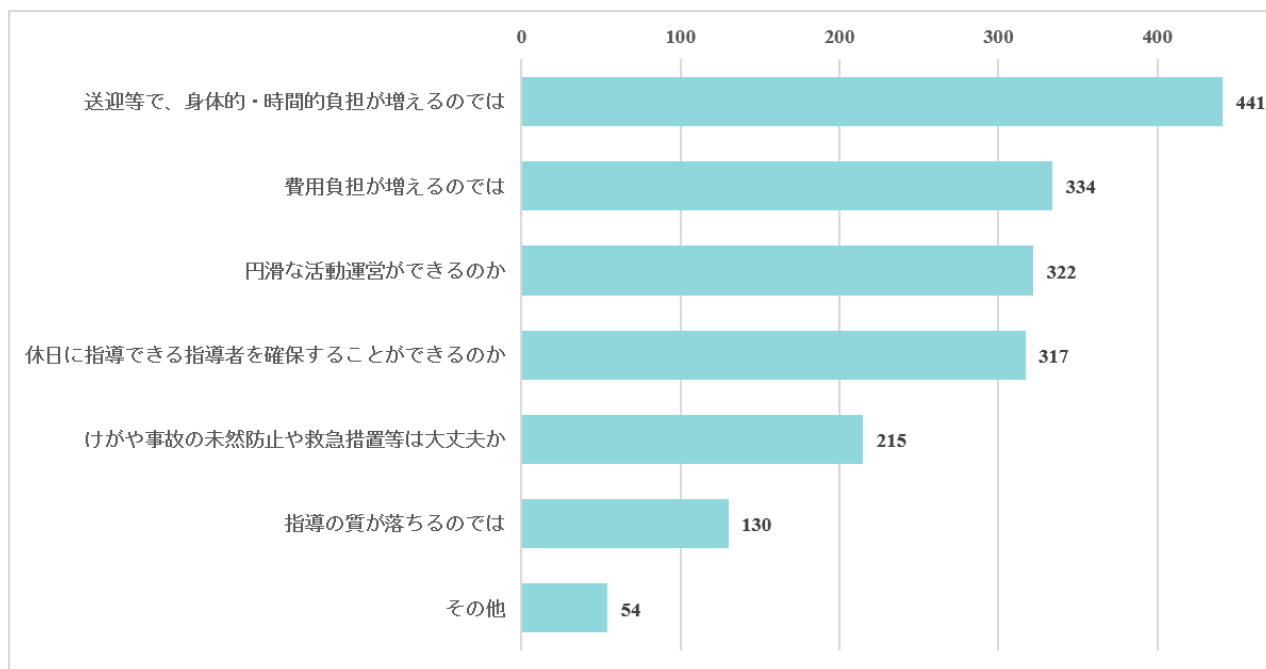


図 25. 地域クラブ活動に対する不安

(7) 地域クラブの運営の重要度

地域クラブの運営における重要度が高い項目は、「団体内ではメンバー間で情報共有が徹底されている（91.1%）」、「十分な数の指導者が配置されている（90.7%）」であった。一方で、重要度が相対的に低かった項目は、「学校との連携が図られている（76.6%）」、「運営スタッフが充実している（78.2%）」であった。保護者は、指導者の配置や団体内での情報共有といった、地域クラブにおける指導・運営体制の整備を重視していることが明らかになった。

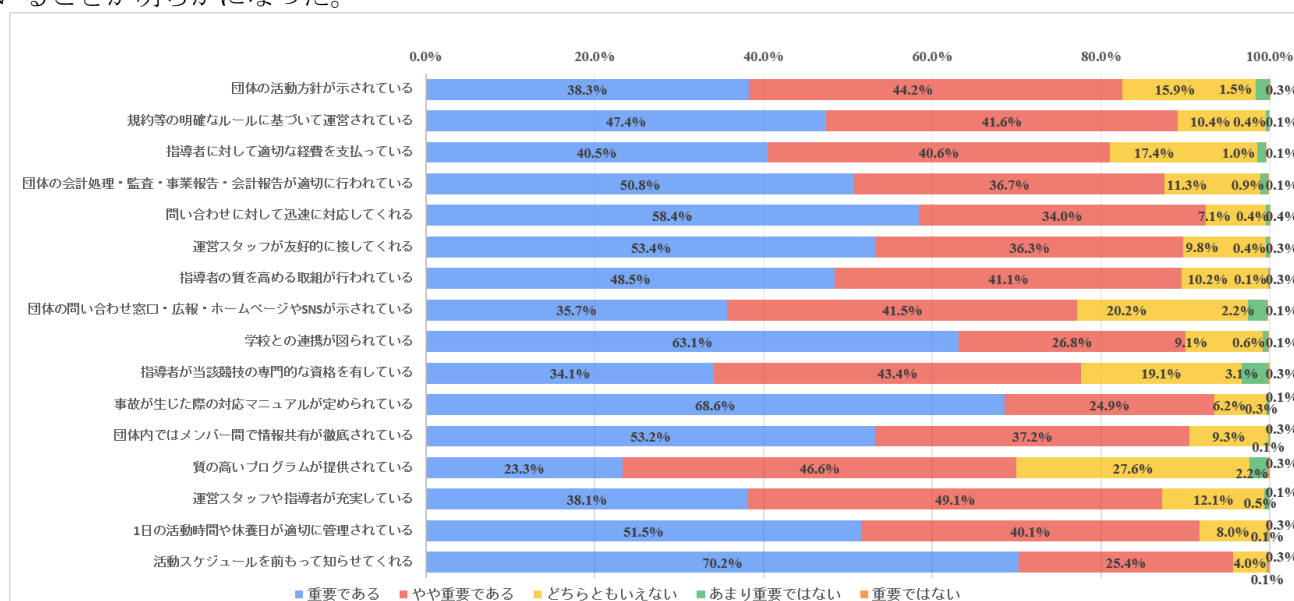


図 26. 地域クラブ活動の運営の重要度

(8) 地域クラブ活動の満足度

地域クラブ活動の満足度について、「とても満足している」又は「どちらかといえば満足している」と回答した保護者の割合は全体で 81.9%であった。学年別では、中学 3 年生の保護者が 85.2%、中学 2 年生の保護者が 85.4%、中学 1 年生の保護者が 76.3%であり、全体として満足度は高いものの、中学 1 年生の保護者では他の学年と比較してやや低い傾向がみられた。

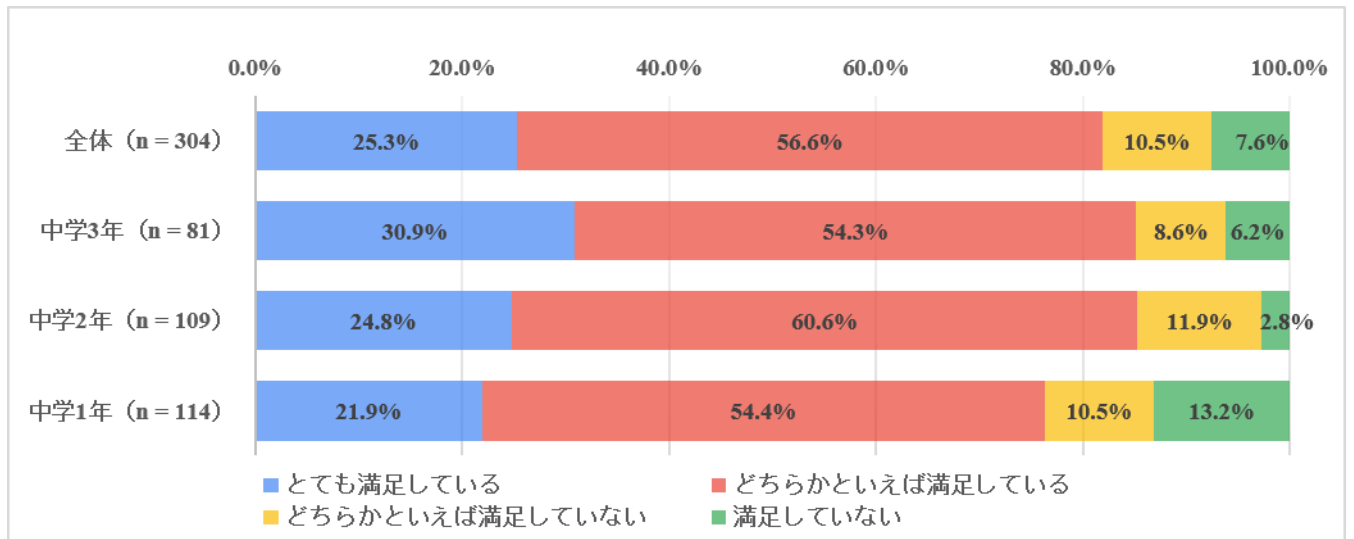


図 27. 地域クラブ活動の満足度

4 教員調査

(1) 年代

教員の年代は、30 歳代が 32%と最も多く、次いで、20 歳代の 26%であった。

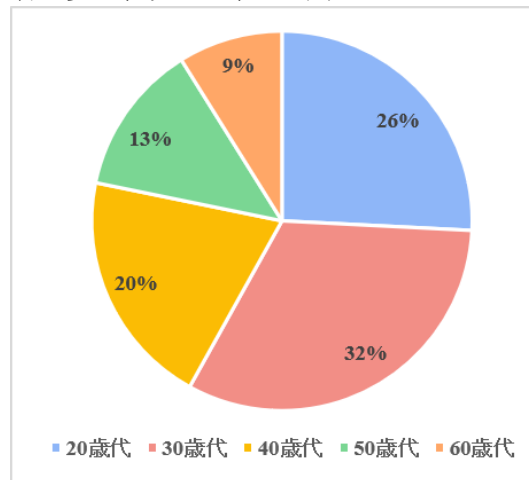


図 28. 年代

(2) 指導種目の経験（中学校教員のみ回答）

現在関わっている地域クラブの種目について、49.0%の教員が「経験種目である」と回答した。一方で、「経験種目ではなく自信がない」と回答した割合は 28.6%に上った。地域クラブ活動への移行後も、専門性に不安を抱える教員が指導に関わっている実態がみられ、地域クラブにおける専門的な指導者の確保が課題であることが示唆された。

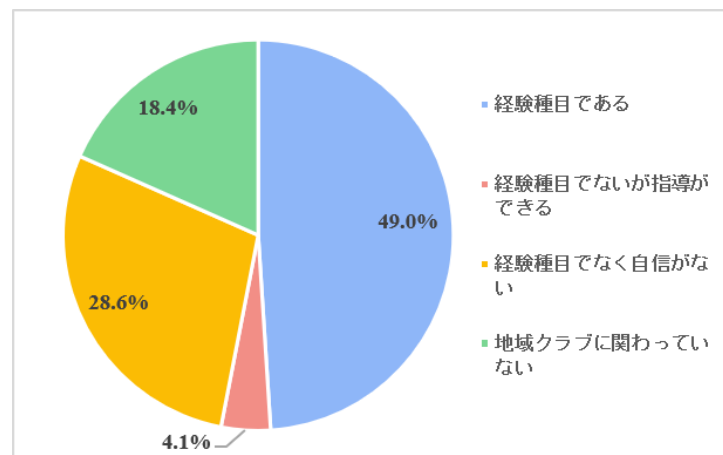


図 29. 指導する地域クラブの種目経験

(3) 年間の学校外での活動日数（中学校教員のみ回答）

年間に学校外での試合や遠征に費やしている日数は、「11 日～20 日」および「21 日～30 日」（ともに 22.4%）が最も多かった。

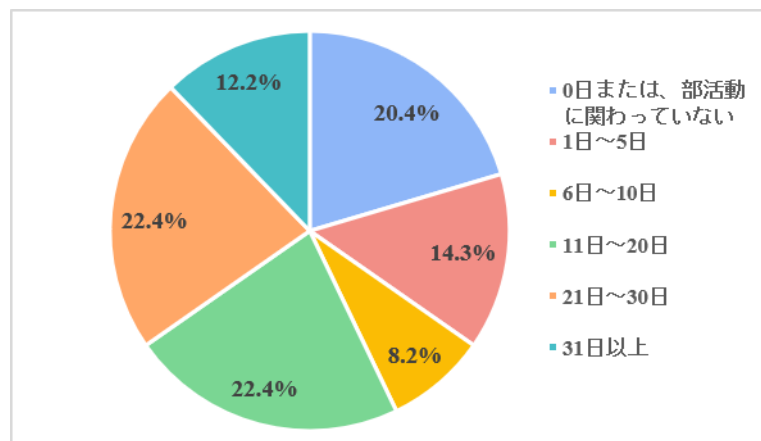


図 30. 年間の学校外での活動日数

(4) 地域クラブ活動の意義

地域クラブ活動の意義について、「そう思う」「ややそう思う」と回答した割合が高かった項目は、「スポーツ（競技）や音楽などを楽しめる（96.2%）」、「クラスや学年を超えた友人ができる（94.3%）」であった。一方、低かった項目は、「高校や大学の進学に役立つ（53.3%）」、「厳しい練習に耐え、忍耐力など強い精神力が身につく（71.7%）」であった。教員は、地域クラブ活動の楽しさや友人関係の構築を重視していることが分かる。

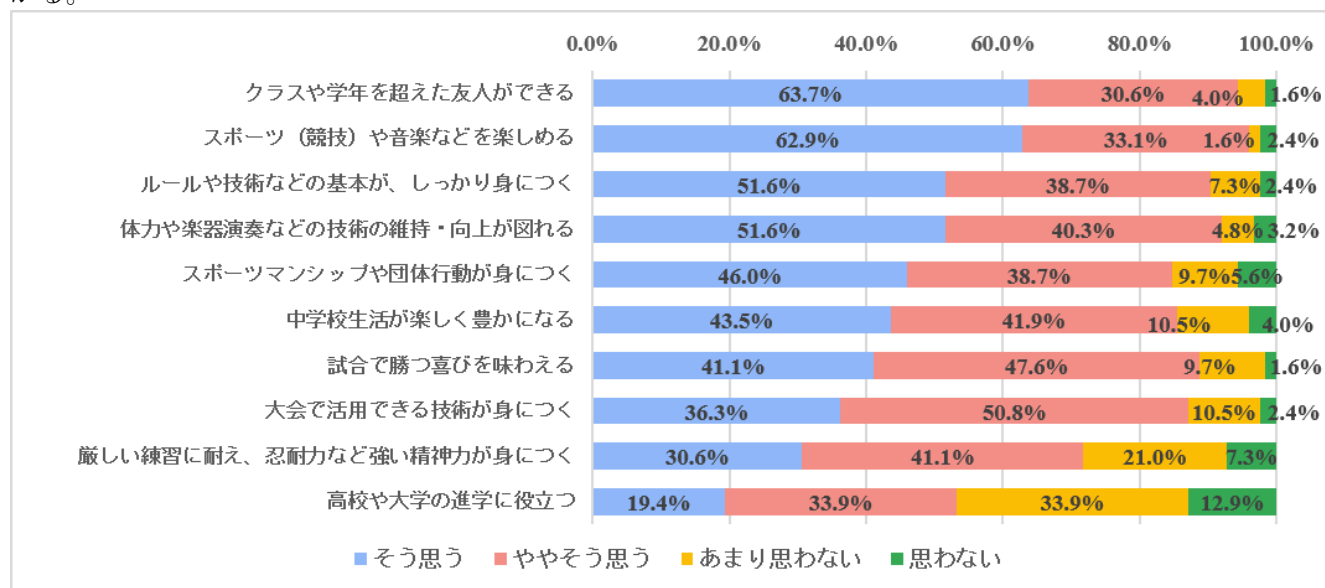


図 31. 地域クラブ活動の意義

(5) 地域クラブ活動の問題点

地域クラブ活動の問題点として「そう思う」又は「ややそう思う」と回答した割合が最も高かった項目は、「専門的技術指導のできる教員不足（79.8%）」であった。一方で、相対的に低かった項目は、「顧問の行き過ぎた指導（33.9%）」や「保護者の期待過多（54.8%）」であった。

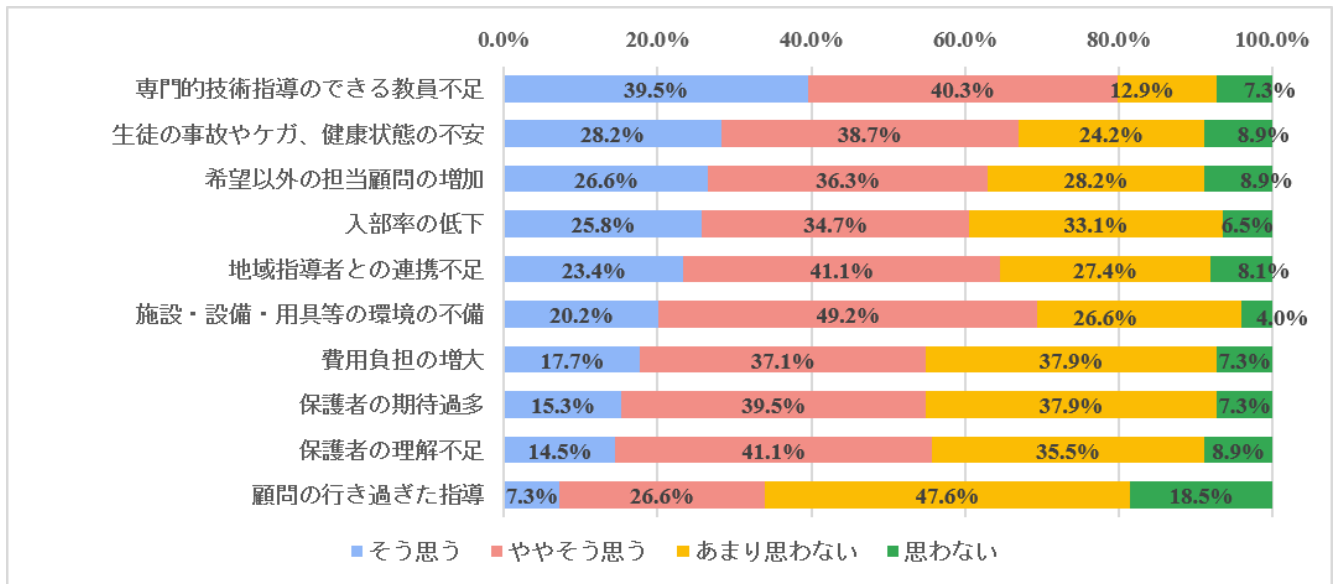


図 32. 地域クラブ活動の問題点

(6) 平日の部活動の地域移行（展開）への賛否

平日の地域展開には 89.5%の教員が賛成しており、反対は 10.5%であった。また、中学校教員では 83.7%、小学校教員では 93.4%が賛成しており、小学校教員の方が平日の地域展開に賛成する割合が高かった。

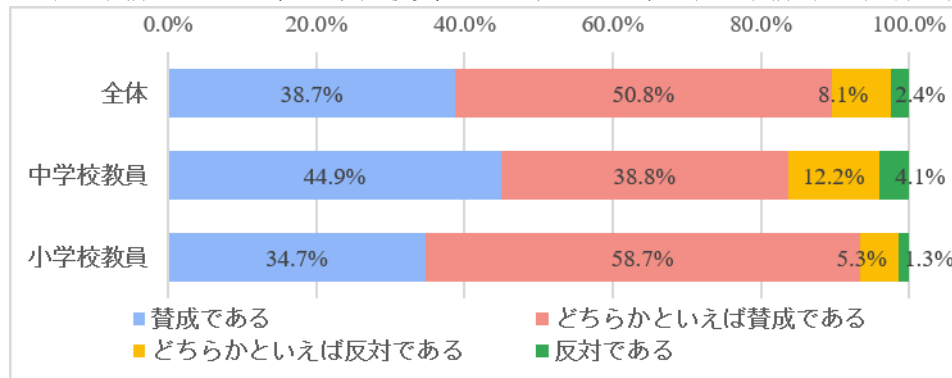


図 33. 平日の部活動の地域移行への賛否

(7) 次年度の地域移行（展開）への参画意向

次年度、地域移行（展開）に「参画する」と回答した教員はわずか9%であり、52%は「参画しない」と回答した。一方、「現段階では分からない」と態度を保留している教員は 39%であった。教員の参画を促進するため、兼職兼業に関する制度や具体的な参画方法について周知を図る必要がある。

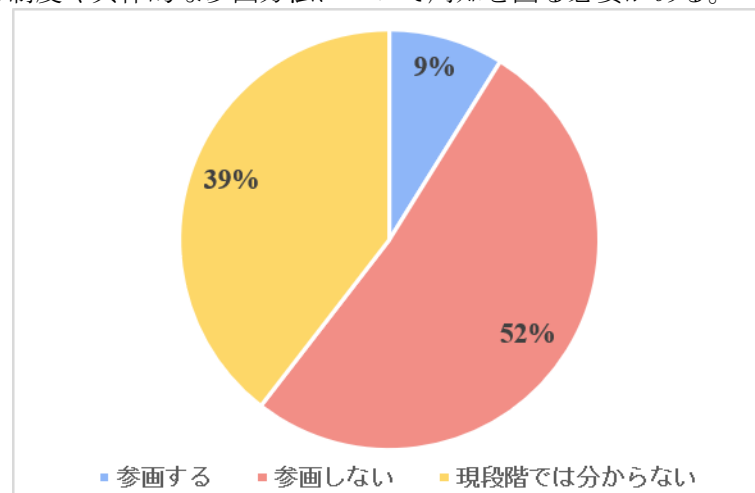


図 34. 地域移行（展開）への参画意向（教員）

(8) 地域クラブでの指導希望種目

教員が地域クラブで指導を希望する種目は、「吹奏楽（n=3）」が最も多く、次いで「サッカー」、「ソフト

テニス」、「バスケットボール」、「バレーボール」、「陸上競技」（いずれも $n=2$ ）であった。

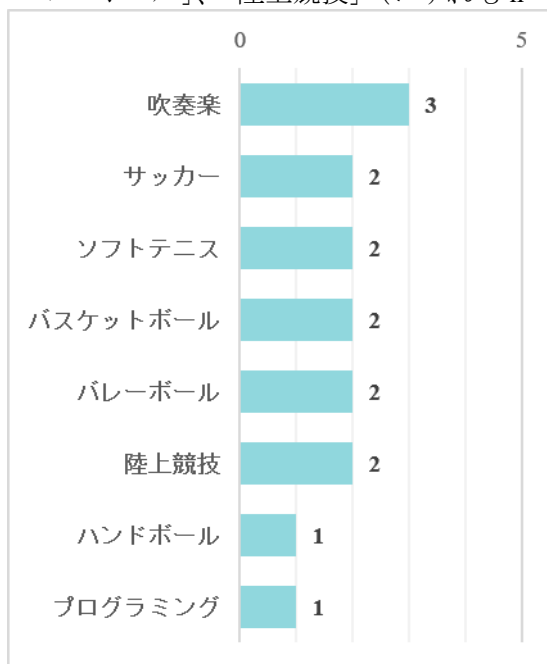


図 35. 地域クラブでの指導希望種目

5 指導者調査

(1) 年代

指導者の年代は、60 歳代が 26.7%と最も多く、次いで、40 歳代の 20.0%であった。

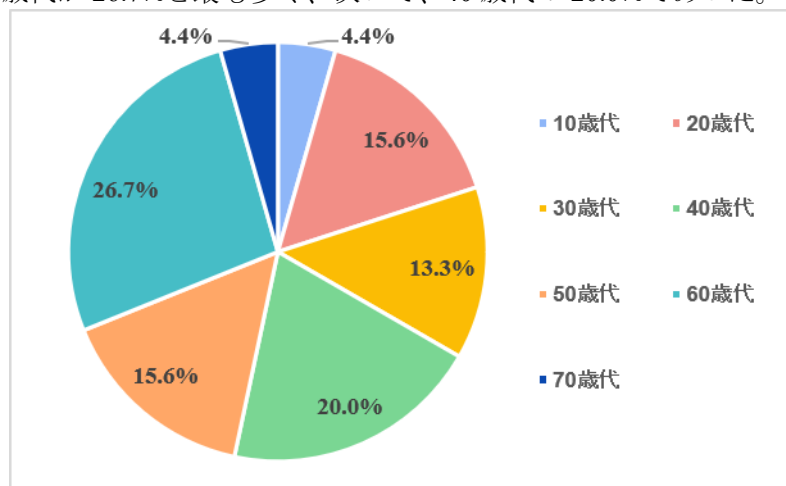


図 36. 指導者の年代

(2) 指導種目の経験

指導する種目の経験は、「経験種目である」が 91%であり、「経験種目でないが指導ができる」が 9%であった。一方で、「経験種目ではなく自信がない」と回答した地域指導者はいなかった。地域指導者の全員が指導に自信を持っていることが分かる。

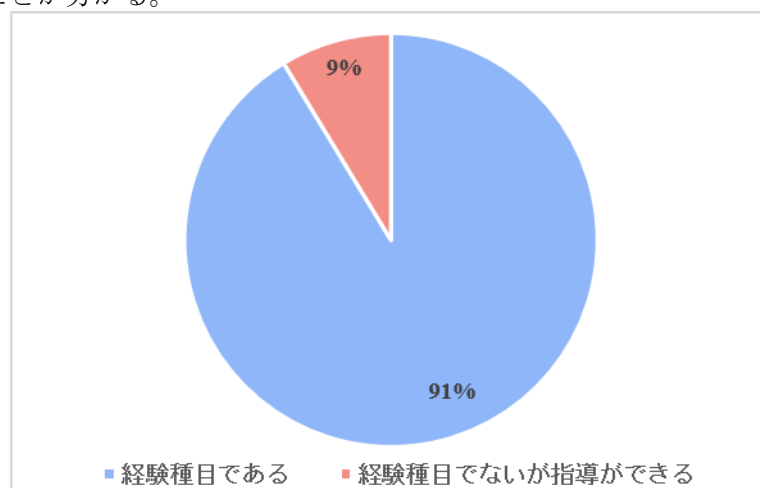


図 37. 指導種目の経験

(3) 年間の学校外での活動日数

年間に学校外での試合や遠征に費やしている日数は、「1 日～5 日 (25.6%)」が最も多く、次いで「0 日 (23.1%)」、「11 日～20 日 (20.5%)」であった。

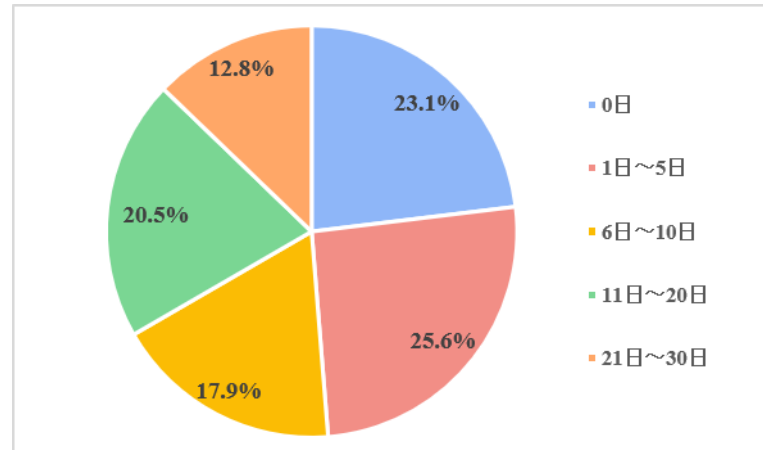


図 38. 年間の学校外での活動日数

(4) 地域クラブ活動の意義

地域クラブ活動の意義について、「そう思う」「ややそう思う」と回答した割合が高かった項目は、「スポーツ（競技）や芸術・文化などを楽しめる（91.3%)」、「クラスや学年を超えた友人ができる（91.3%)」であった。一方、低かった項目は、「高校や大学の進学に役立つ（56.5%)」、「厳しい練習に耐え、忍耐力など強い精神力が身につく（56.5%)」であった。指導者は、地域クラブ活動を楽しむことに加え、学校や学年を越えた交流にも意義を感じていることが分かる。

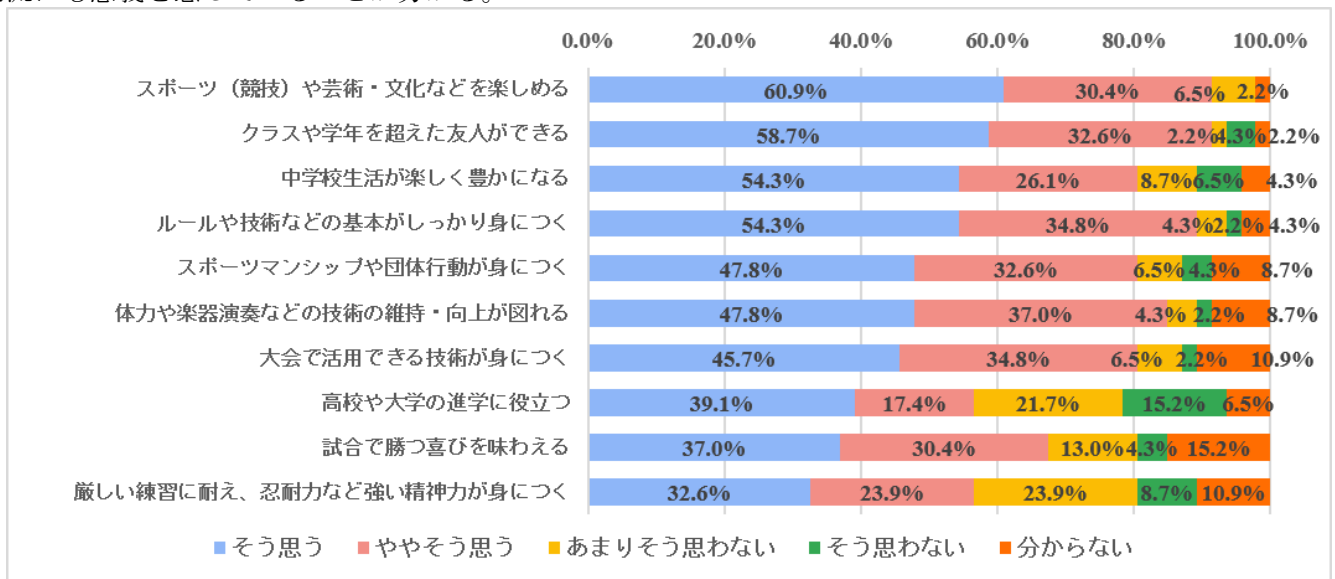


図 39. 地域クラブ活動の意義（指導者）

(5) 地域クラブ活動の問題点

地域クラブ活動の問題点として「そう思う」又は「ややそう思う」と回答した割合が最も高かった項目は、「入部率の低下（67.4%)」であり、次いで「専門的技術指導のできる教員不足（63.0%)」、「施設・設備・用具等の環境の不備（60.9%)」であった。一方で、相対的に低かった項目は、「指導者の行き過ぎた指導（17.3%)」や「希望以外の担当顧問の増加（26.1%)」であった。指導者は、地域クラブ活動における参加者や指導者の確保、指導・活動環境に課題を感じていることが分かる。

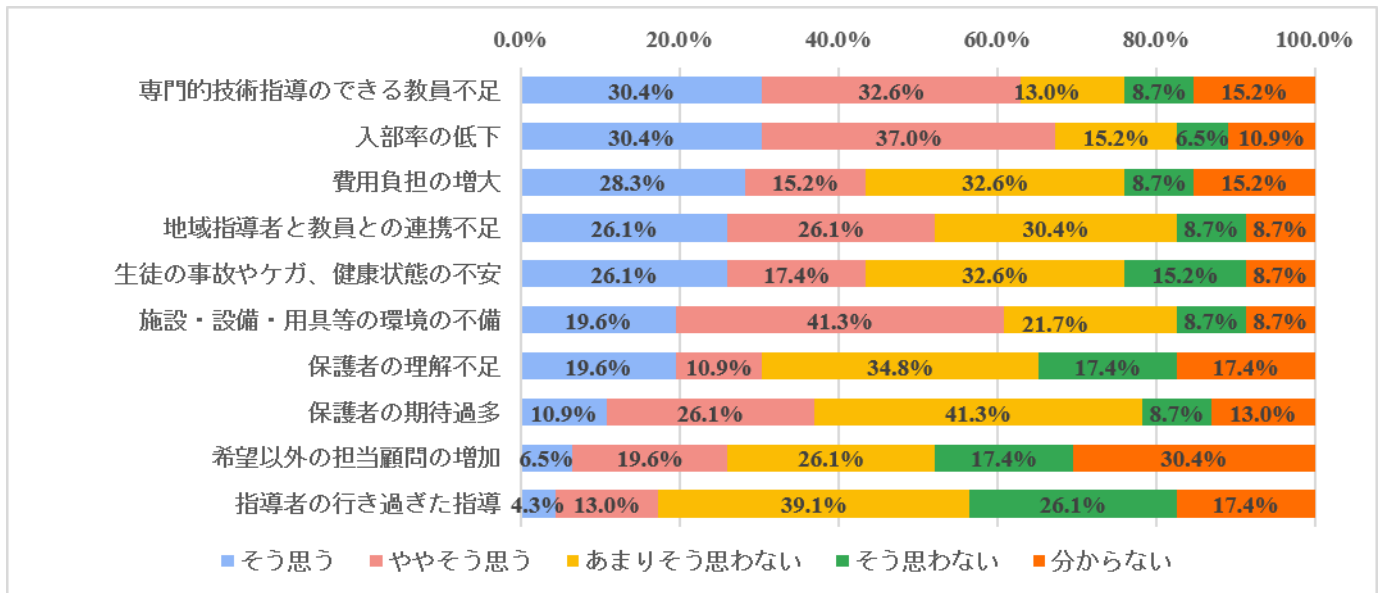


図 40. 地域クラブ活動の問題点（指導者）

(6) 平日の部活動の地域移行（展開）への賛否

平日の部活動の地域移行について、「賛成である（37.8%）」と「どちらかといえば賛成である（48.9%）」を合わせると、86.7%が賛成と回答した。一方、「どちらかといえば反対である」は 13.3%であり、「反対である」と回答した指導者はいなかった。指導者の多くが、平日の地域移行について肯定的に捉えている。

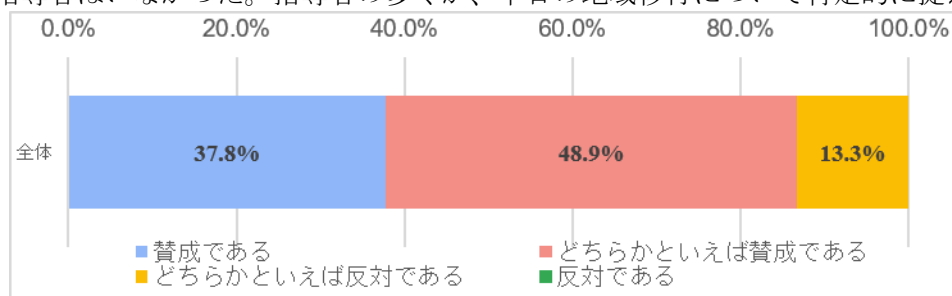


図 41. 平日の部活動の地域移行（展開）への賛否

(7) 地域クラブ活動の運営の重要度

地域クラブ活動の運営における重要度が高い項目は、「活動スケジュールを前もって知らせてくれる（97.8%）」、「団体内ではメンバー間で情報共有が徹底されている（95.7%）」、「問い合わせに対して迅速に対応してくれる（95.6%）」であった。一方で、重要度が相対的に低かった項目は、「指導者が当該競技の専門的な資格を有している（71.8%）」、「質の高いプログラムが提供されている（78.2%）」であった。指導者は、専門的な資格やプログラムの質以上に、情報共有や連絡・対応といった円滑な運営体制を重視していることが分かる。

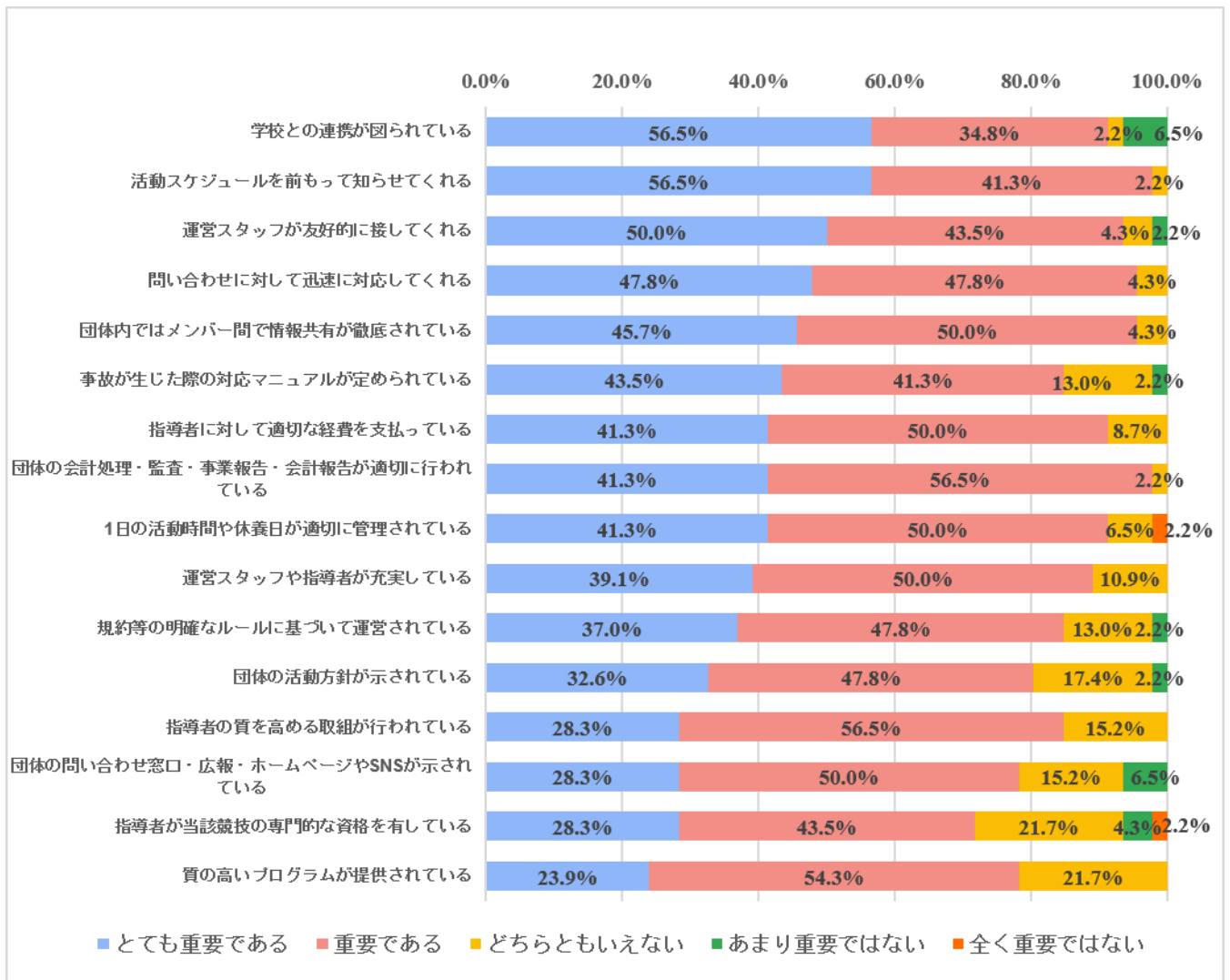


図 42. 地域クラブ活動の運営の重要度（指導者）

(8) 地域移行（展開）への参画意向

次年度、地域移行（展開）に「参画する」意向の指導者は 74%であり、「参画しない」は 2%であった。一方、「現段階では分からない」と態度を保留している指導者は 24%であった。指導者の参画意向は高く、今後も地域クラブ活動を担う人材としての参画が期待される。

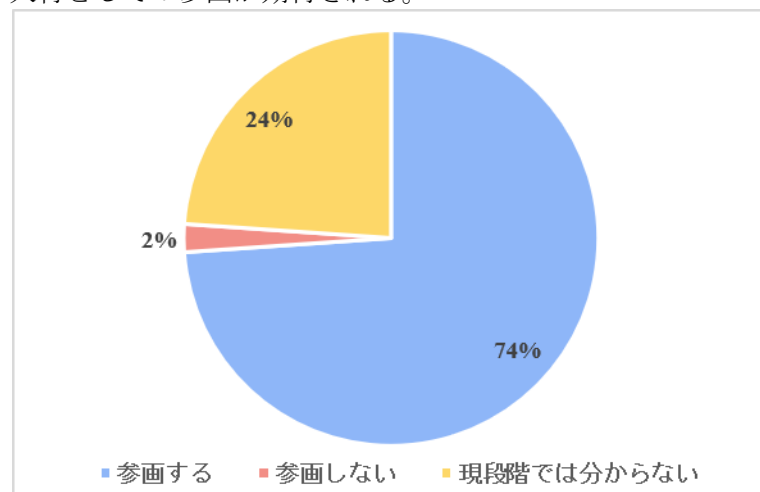


図 43. 地域移行（展開）への参画意向

(9) 地域クラブでの指導希望種目

地域指導者が地域クラブで指導を希望する種目は、「ソフトテニス（n = 4）」が最も多く、次いで「サッカー（n = 3）」、「英会話（n = 3）」、「剣道（n = 3）」であった。

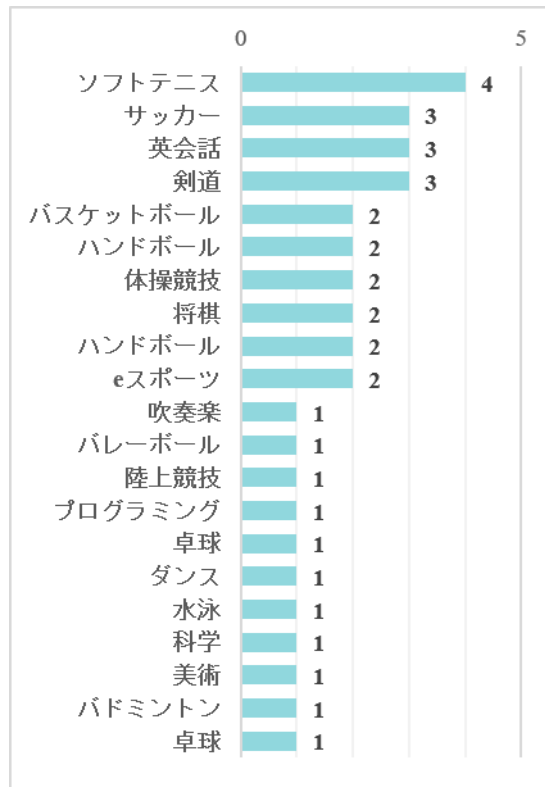


図.44. 地域クラブでの指導希望種目

令和7年度調査結果および令和6年度調査結果の比較

1 中学生の生活習慣

(1) 朝食の摂取状況

朝食の摂取状況を令和7年度と令和6年度で比較した結果、有意差はみられなかった ($\chi^2 = 5.25, p = .155$)。地域クラブへの完全移行に伴い、活動時間帯が遅くなることによる生活習慣への影響が懸念されるものの、朝食の摂取状況には明確な変化は確認されなかった。

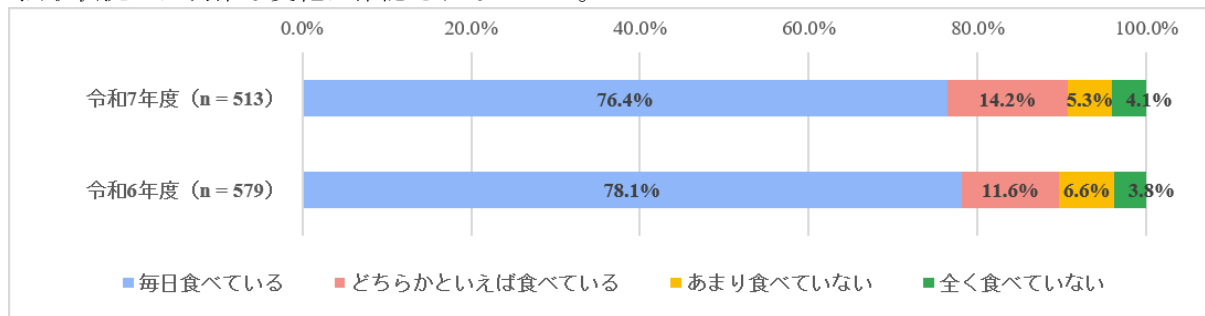


図 45. 朝食の摂取状況

(2) 1 週間の運動時間

1 週間の運動時間を令和7年度と令和6年度で比較した結果、5%水準で有意に増加していた ($p = .048$)。地域クラブへの完全移行に伴う活動環境の変化が、運動時間の増加に影響した可能性が考えられる。

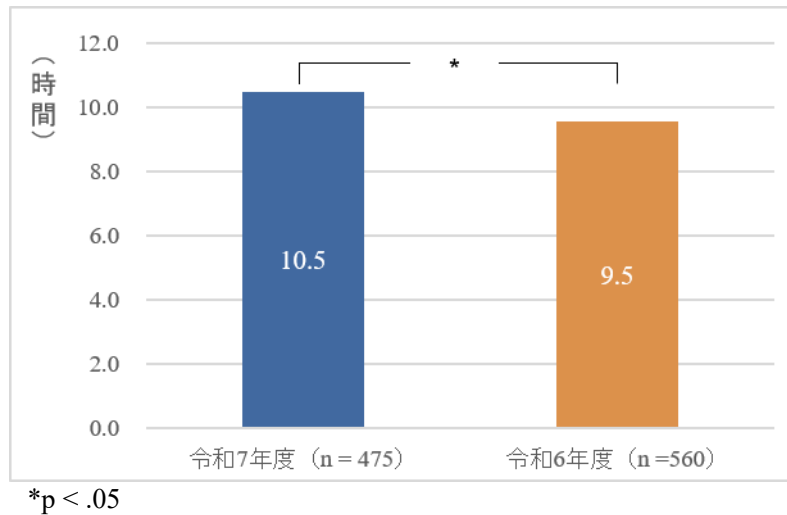


図 46. 1 週間の運動時間

(3) 1 日の睡眠時間

1 日の睡眠時間を令和 7 年度と令和 6 年度で比較した結果、有意差はみられなかった ($p = .185$)。地域クラブへの完全移行に伴い、活動時間帯が遅くなることによる睡眠時間への影響が懸念されるものの、今回の比較では明確な変化は確認されなかった。

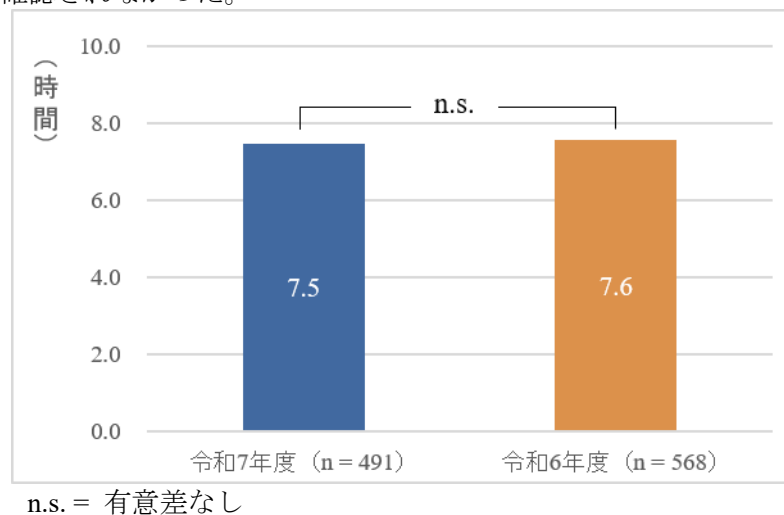


図 47. 1 日の睡眠時間

(4) 1 日の勉強時間

1 日の勉強時間を令和 7 年度と令和 6 年度で比較した結果、5%水準で有意な増加がみられた ($p = .017$)。地域クラブへの完全移行に伴って活動時間帯が変化し、放課後の時間の使い方が変化した可能性が考えられる。ただし、本調査では学習時間帯を把握していないことから、勉強時間の増加の要因については引き続き検討が必要である。

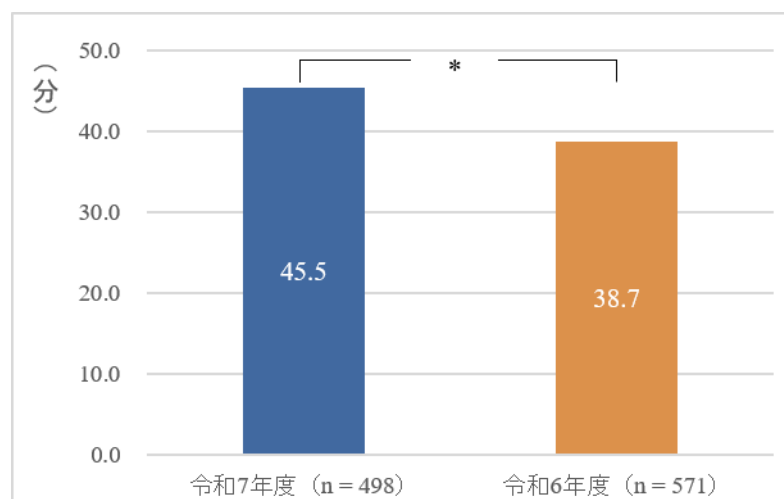


図 48. 1 日の勉強時間